

くま手チャート

Wチャート

キャンディチャート

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた実践的研究

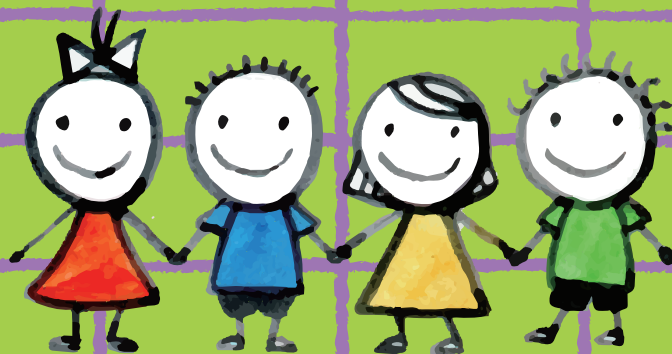
～ 思考ツールを活用した授業改善 ～

研究紀要
第25号

〈3か年継続研究：2年次〉

同心円チャート

マトリックス



令和2年3月 留萌管内教育研究所

研究紀要 第25号

**「主体的・対話的で深い学び」の
実現に向けた実践的研究**
～ 思考ツールを活用した授業改善 ～

〈3か年継続研究：2年次〉

令和2年3月 留萌管内教育研究所

発刊に当たって

平成から令和へと、新たな時代が幕を開けた今年度の大きな出来事のひとつに、吉野彰旭化成名誉フェローが“ノーベル化学賞”を受賞したことが挙げられます。とりわけ、吉野さんが化学に興味をもつきっかけとなった化学者ファラデーが著した『ロウソクの科学』は一時期なかなか手に入らないくらいの注目を集めました。この本を薦めたのは吉野さんが小学校4年の時の担任の先生だったそうです。なぜろうそくの火は鮮やかな色で燃えるのか。なぜろうそくの火は燃え続けることができるのか。なぜろうそくの火は火の形状を保っていられるのか。普段は気に止めずに過ごしてしまうような事象に対して、疑問をもち、仮説を立て、検証することの大切さや面白さをこの本を通じて吉野さんは学んだのでしょ。幼少期からの読書の大切さは殊更言うまでもありませんが、子どもたちに対し、幅広い知的な興味や関心を刺激する学校というものの存在価値を改めて認識させられました。吉野さん曰く、「好奇心から調べたり、考えたりするのが原点。素朴な疑問を突き詰めていくことが大切。それが次の好奇心につながっていく。」この問い続けていく姿勢こそが、主体的に学びに向かう力、学び続けることの原点と考えます。

来年度早々、小学校を皮切りに、新学習指導要領が全面実施となります。まさに今、教育界は大きな時代の節目にあります。今次改訂の目玉である「主体的・対話的で深い学び」に向け、私たちは子どもたちの具体的な興味・関心・意欲に寄り添った授業展開をはじめとした意図的・計画的な教育を行い、それを高校から大学へとつなげることで、今後も第2、第3の吉野さんを輩出していきたいものです。そして、これを実現するためには、私たち教員一人一人が日々の教育活動を行いながらそれぞれの力量を高めていく“学び続ける教師”として、各校における校内研修への主体的な取組が重要です。その上で、教職員間で学校の教育目標の実現に向けた教育課題などを共有し、チーム学校として、その教育力の向上を図っていく必要があります。

このため、当研究所では、平成30年度に新たに研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践的研究」と設定し、思考ツールを活用した授業改善の在り方について、3か年計画に基づく研究に着手しました。研究2年次の今年度は、興味や関心を高める問題との出会わせ方の工夫（視点1）、話し合いにおける互いの考えの比較検討の在り方（視点2）に焦点を当て、研究協力員による2本の公開授業と研究協議を中心に、実践検証を進めてまいりました。また、9月には今次研究における重要なアイテムとなっている“思考ツール”の活用事例を紹介する研修講座も開催いたしました。少しずつではありますが、管内の各種研究会や研修会でもこの思考ツールを取り入れた授業実践を目にするようになったことは本研究所の所員一同、大変うれしく思うとともに、今後も研鑽を積み、教育の最前線で日々奮闘されている先生方の期待に応えられるよう努力を積み重ねていこうと意を新たにしているところです。

結びに、本研究所の運営に対してご支援を賜りました管内各市町村教育委員会、北海道教育庁留萌教育局、管内小中学校長会・教頭会の皆様、そして本研究の推進を支えてくださいましたすべての方々に感謝とお礼を申し上げ、研究紀要発刊に当たっての挨拶といたします。

令和2年3月

留萌管内教育研究所長 秋葉良之

目 次

「発刊に当たって」

留萌管内教育研究所長 秋 葉 良 之

I	研究の概要	1
1	研究主題	
2	研究主題設定の理由	
3	目指す児童生徒像	
4	研究の仮説	
5	研究内容	
6	研究計画の概要	
7	研究の全体構造	
II	研究の内容	6
1	研究のねらい	
2	研究の具体	
3	研究の視点	
4	学習指導案の型	
III	研究員・研究協力員の実践	20
1	検証授業	
	○苫前町立古丹別小学校 第6学年 社会科 授業者 佐 治 麻里子 研究協力員	
	○天塩町立天塩中学校 第1学年 道徳科 授業者 鴻 上 優 美 研究協力員	
2	思考ツールを用いた授業実践	
	○小学国語科(5年 ピラミッドチャート) ○小学生生活科(1年 エリアチャート)	
	○小学音楽科(2年 クラゲチャート) ○小学道徳科(4年 ウェビングマップ)	
	○小学道徳科(6年 バタフライチャート) ○中学国語科(3年 マトリックス)	
	○中学体育科(2年 ステップチャート) ○中学道徳科(1年 K P T)	
3	思考ツール説明書	
IV	研究の成果と課題	55

※ 参考文献リスト

あとがき

I 研究の概要



1 研究主題

2 研究主題設定の理由

3 目指す児童生徒像

4 研究の仮説

5 研究の内容

6 研究計画の概要

7 研究の全体構造

I 研究の概要

1 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践的研究 ～思考ツールを活用した授業改善～

2 研究主題設定の理由

(1) 今日的な学校教育の課題から

変化が激しく将来の予測が困難な時代にあっても、一人一人が自信をもって自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができるよう、子どもたちに「生きる力」を育むためには、「何を学ぶか」という教育の内容を重視しつつ、その内容を学ぶことで「何ができるようになるのか（育成を目指す資質・能力）」を明確にすることが重要であると言われている。そのため、新学習指導要領では、各教科等の学習を通して育まれる資質・能力、学習の基盤となる資質・能力など、あらゆる資質・能力に共通する要素を「何を理解しているか、何ができるか《知識・技能》」「理解していること・できることをどう使うか《思考力・判断力・表現力等》」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか《学びに向かう力・人間性等》」の三つの柱として明確化されている。それを踏まえ、各教科等の目標や内容も資質・能力の三つの柱の観点から再整理されている。

さらに、これまでの学校教育の蓄積を生かしつつ、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していくことが求められている。

(2) これまでの研究の成果と課題

本研究所では、これまで8次に及ぶ共同研究に取り組んできた。前次では「学ぶ意欲『～たい』を引き出す学習指導の実践的研究」について成果と課題を明らかにした。学習活動に見通しをもたせ、メタ認知的振り返りや伝える相手を意識させた表現する場を学習過程の中に位置付けて指導していくことで、子どもたちが主体的に活動し、表現力を向上させるためには、「①児童生徒の驚きや疑問からの課題設定、②単元を見通した目標や学習計画の提示、③観点を明確化し提示した振り返り活動、④交流のねらいや学習形態の工夫」が成果として見えた。一方で、「①発達段階や教科の特性に応じた見通しのもたせ方の吟味の必要性、②振り返る時間を含めた終末の十分な時間を確保するための工夫の必要性」などの課題が確認された。

新たな研究を立ち上げるにあたり、今後も「見通す・振り返る」活動の向上を目指した授業改善を積み重ねていき、主体的な学びを実現できるようにしていきたいと考えた。

(3) 留萌管内の子どもたちの実態

平成29年度に実施された全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、留萌管内の状況は次のような結果となっている。

学校質問紙 41

「授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた」

児童生徒質問紙 58, 60

「授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う」

	小学校		中学校			
	学校質問紙	児童質問紙	学校質問紙	生徒質問紙		
よく行った（当てはまる）	37.5%	39.2%	38.5%	28.1%		
どちらかといえば行った	56.8%	46.4%	46.2%	54.8%		
合計	94.3%	8.7p の差	85.6%	84.7%	1.8p の差	82.9%

北海道：よく行った（当てはまる） 【小学校】 32.2% 【児童】 27.3% 【中学校】 25.9% 【生徒】 23.1%
 どちらかといえば行った（当てはまる）【小学】 55.3% 【児】 45.2% 【中学】 58.7% 【生】 46.8%

学校質問紙と児童生徒質問紙を比較すると、特に小学校の場合は、認識に約9ポイントの差がある。教師側は、課題の設定やその解決に向けた話し合い、まとめ、発表するなどの学習活動を取り入れたと感じているが、児童はそう感じていない、と認識の差が感じられる。

学校質問紙 17

「児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」

児童生徒質問紙 58, 60

「学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」

	小学校		中学校			
	学校質問紙	児童質問紙	学校質問紙	生徒質問紙		
その通りだと思う	18.8%	27.1%	7.7%	19.4%		
どちらかといえばそう思う	68.8%	44.3%	76.9%	44.8%		
合計	87.6%	16.2p の差	71.4%	84.6%	20.4p の差	64.2%

北海道：その通りだと思う（そう思う）【小学校】 17.0% 【児童】 26.1% 【中学校】 14.7% 【生徒】 19.6%
 どちらかといえばそう思う 【小学校】 64.3% 【児童】 40.3% 【中学校】 66.5% 【生徒】 44.1%

こちらの結果については、学校（教師）側と児童生徒の認識の差が16ポイント以上と大きな差が出ている。また、中学校では「その通りだと思う」の学校質問紙の回答率が全道平均のほぼ半分となっており、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている、と断定できない現状だと言える。

そこで、今年度からの研究では、自分の考えをもち、それを表現したり、相手や目的を意識して情報を収集し、表現したりすることなど、「思考力・判断力・表現力の育成」に焦点を当てる。思考ツールを活用した授業実践、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行うことで、思考力・判断力・表現力の育成がより実現できるよう、研究を推進していく。

3 目指す児童生徒像

各教科等において、生きて働く「知識・技能」を習得し、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を高め、身に付けた知識や技能を活用・発揮しようとする子

※身に付けた知識や技能を活用・発揮しようとする子 ⇒ 「深い学び」につながる姿

↑
深い学び

深い学びを実現する児童生徒の姿

NITS 独立行政法人
教職員支援機構



思考して問い続ける



知識・技能を習得する



知識・技能を活用する



自分の思いや考えと結び
付ける



知識や技能を概念化する



自分の考えを形成する



新たなものを創り上げる

4 研究の仮説

児童生徒が、課題を解決するプロセスを通じて、考えを可視化・操作化できる思考ツールを活用し、「自己の学習を見通し、振り返る主体的な学び」と、「思考を広げ、確かな学びに向かう対話的な学び」を重視した授業展開を工夫することで、児童生徒の「深い学び」につながる学びの過程が実現できるだろう。

5 研究内容

「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習活動の在り方を検証するために、次の内容について研究する。

研究内容・視点1 ～自己の学習を見通し、振り返る主体的な学び～

- (1) 興味や関心を高める（切実感のある課題設定）
- (2) 見通しをもつ（学習課題の提示，多様な学び方の提供）
- (3) 自分と結び付ける（自分の問題として考えたいくなる題材提供の工夫）
- (4) 粘り強く取り組む（試行錯誤できる学習環境）
- (5) 振り返って次へつなげる（学習内容のまとめ・適用，文字言語での振り返り）



研究内容・視点2 ～思考を広げ、確かな学びに向かう対話的な学び～

- (1) 互いの考えを比較する（ペア・グループ学習，目的意識）
- (2) 多様な情報を収集する（ICT等の活用）
- (3) 思考を表現に置き換える（思考ツールの活用）
- (4) 多様な手段で説明する（ICT等の活用，相手意識）
- (5) 共に創り上げる（対話）
- (6) 協働して課題解決する（学び合い）



6 研究計画の概要

(1) 研究期間

平成 30 年度から令和 2 年度までの 3 か年継続研究

(2) 研究領域

特別活動を除く，全教科・領域

「国語」「社会」「算数，数学」「理科」「生活」「音楽」「図画工作・美術」

「家庭，技術・家庭」「体育，保健体育」「外国語」「特別の教科 道徳」

「外国語活動」「総合的な学習の時間」

(3) 研究の進め方

- ①文献や先行実践資料などを調査したり，所内の研究員会議や研究協力員との合同研究会議，道研連との共同研究をしたりすることなどを通して，理論研究を進める。
- ②1 年次は，留萌管内教育研究所の研究員，2 年次・3 年次は研究協力員の授業実践を基に理論を検証し，各年次とも研究紀要にまとめる。
- ③研究紀要にまとめた内容は，留萌教育局との合同研修会において発表し，研究協議等で明らかにされた成果と課題を基に，研究の深化・発展を図る。

(4) 今年度の計画

	共同研究	道研連共同研究
4 月	・年間計画立案 ・授業者の決定	・道研連定期総会
5 月	・第 5 回合同研究会議 ・理論研修 (今年度の研究推進内容・検証授業日程等)	・共同研究推進委員会
6 月	・第 6 回合同研究会議 (指導案検討)	・共同研究推進委員会
7 月	・第 1 回検証授業 (佐治研究協力員)	
8 月		・北海道教育研究所連盟夏季 研究所員研修会 ・第 74 回北海道教育研究所連 盟研究発表大会空知大会
9 月		
10 月	・第 7 回合同研究会議 (指導案検討) ・第 2 回検証授業 (鴻上研究協力員)	・共同研究推進委員会
11 月	・研究紀要編集作業	
12 月		・共同研究推進委員会
1 月	・今年度の研究の成果と課題	・共同研究推進委員会
2 月	・第 8 回合同研究会議 (今年度の研究の成果と課題について， 次年度の研究計画，研究紀要編集と校正) ・研究紀要編集と校正，入稿 ・留萌教育局との合同研修会	
3 月	・研究紀要第 25 号発刊	

7 研究の全体構造

研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践的研究
～思考ツールを活用した授業改善～

目指す児童生徒像

各教科等において、生きて働く「知識・技能」を習得し、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を高め、身に付けた知識や技能を活用・発揮しようとする子

深い 学びに つながる姿



思考して問い続ける



知識・技能を習得する



知識・技能を活用する



自分の思いや考えと結び
付ける



知識や技能を概念化する



自分の考えを形成する



新たなものを創り上げる

研究の仮説

子どもが、課題を解決するプロセスを通じて、考えを可視化・操作化できる思考ツールを活用し、「自己の学習を見通し、振り返る主体的な学び」と、「思考を広げ、確かな学びに向かう対話的な学び」を重視した授業展開を工夫することで、児童生徒の「深い学び」につながる学びの過程が実現できるだろう。

研究内容

【研究内容・視点1】

自己の学習を見通し、振り返る 主体的な学び

- (1) 興味や関心を高める（切実感のある課題設定）◎R元重点
- (2) 見通しをもつ（学習課題の提示，多様な学び方の提供）◎H30～継続重点
- (3) 自分と結び付ける（自分の問題として考えたいくなる題材提供の工夫）
- (4) 粘り強く取り組む（試行錯誤できる学習環境）
- (5) 振り返って次へつなげる（学習内容のまとめ・適用，文字言語での振り返り）

◎H30～継続重点

【研究内容・視点2】

思考を広げ、確かな学びに向かう 対話的な学び

- (1) 互いの考えを比較する（ペア・グループ学習，目的意識）◎R元重点
- (2) 多様な情報を収集する（ICT等の活用）
- (3) 思考を表現に置き換える（思考ツールの活用）◎H30～継続重点
- (4) 多様な手段で説明する（ICT等の活用，相手意識）
- (5) 共に創り上げる（対話）
- (6) 協働して課題解決する（学び合い）

学びの土台

学習規律の定着

学習環境の整備

支持的風土の醸成

Ⅱ 研究の内容



1 研究のねらい

2 研究の具体

3 研究の視点

4 学習指導案の型

II 研究の内容

1 研究のねらい

本研究は、児童生徒一人一人が、各教科等において、生きて働く「知識・技能」を習得し、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を高め、身に付けた知識や技能を活用・発揮しようとする子を育成することを目指している。

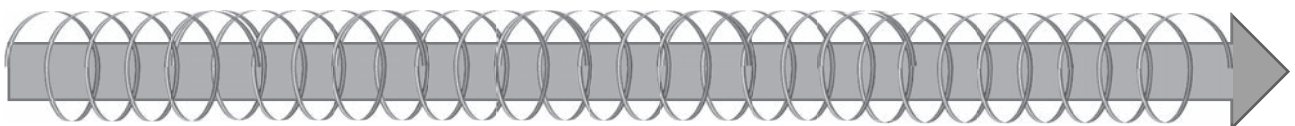
そこで、第9次研究では『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた実践的研究～思考ツールを活用した授業改善～を研究主題に掲げ、研究内容の視点を「自己の学習を見通し、振り返る主体的な学び」と「思考を広げ、確かな学びに向かう対話的な学び」とし、「深い学び」につながる過程の研究を充実させていきたいと考える。

◆各教科における「主体的・対話的な学び」を実現するための

1 単位時間の授業モデル◆

段階	見通し 課題設定 (つかむ)	個人思考	集団解決 (学び合い)	課題定着 (まとめ) 振り返り
活動 内容	○学習課題の設定 ○予想する ○結果や解決方法の見通しをもつ	○課題解決を進める ○表現する	○話し合う (ペア・グループ・全体)	○学習課題に対応したまとめ(整理する) ○類似問題・練習問題に取り組む ○学びの成果を振り返る ○次への課題意識をもつ
思考 ツールの 活用	◎課題解決の方法や手順の共有をスムーズ化	◎自分の考えを可視化し、思考を明確化 ◎自分の考えを操作化し、思考を明確化	◎考えを他者と共有・交換 ◎他者の思考の理解の促進	◎自分の考えを明確化
活用例	P11・12・13	P17	P16・18	P15

主体的・対話的な学び



「深い学び」につながる学習過程の充実

2 研究の具体

(1) 思考ツールの活用

現行の学習指導要領では各教科における「言語活動」が重視され、話し合い活動が多くの学校で実践されている。しかし、話し合いを重ねるだけで内容が深められるわけではなく、充実した言語活動を常に展開していくためには課題も多い。

個人思考の場面では、自分の考えをもち、説明を書ける児童生徒もいれば、うまく書けない児童生徒もいる。当然、うまく書けない児童生徒は、その後の互いの考えを伝え合ったり話し合ったりする集団解決の場面では、口ごもってしまい、受け身になってしまう。なぜなら「うまく考えを書けているかどうか自信がない」からである。

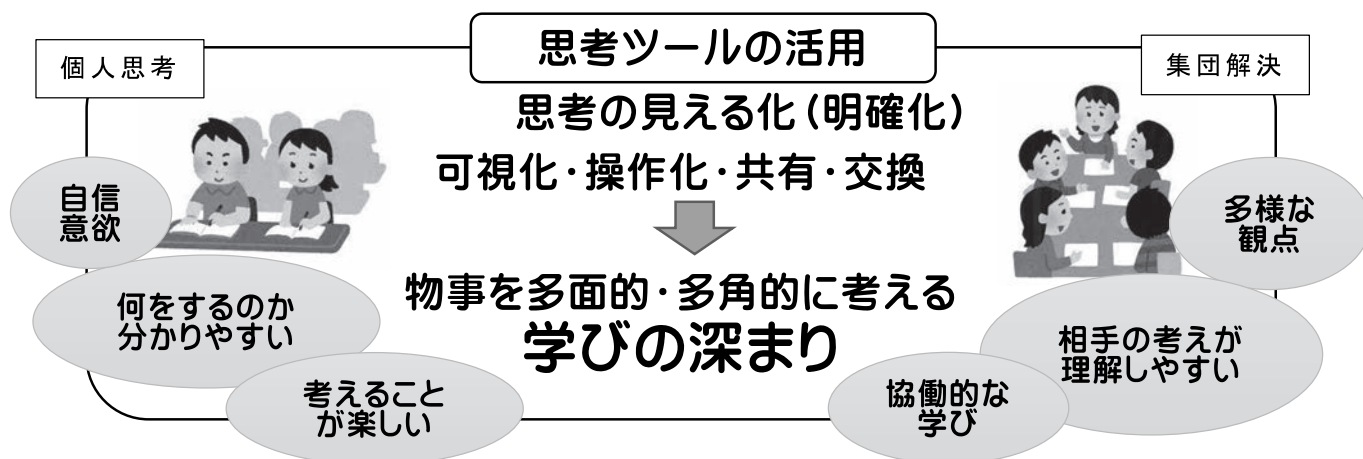
そこで、自分の考えを表出させることが、児童生徒の学習の達成感や学びの自信、さらに深い学びにつなげることができるのではないかと考えた。そのため、注目したのが「思考ツール」である。「思考ツール」とは、「頭の中にある知識や新しく得た情報を、一定の視点や枠組みに従って書き出すツール」である。

思考ツールは、思考の仕方を限定させることで、何をするか、どんな考え方をするのかを分かりやすく明示できるものである。自分の考えを可視化できるので、思考が明確になり、考えることの楽しさの実感から、言語活動をより充実させるものになると考える。

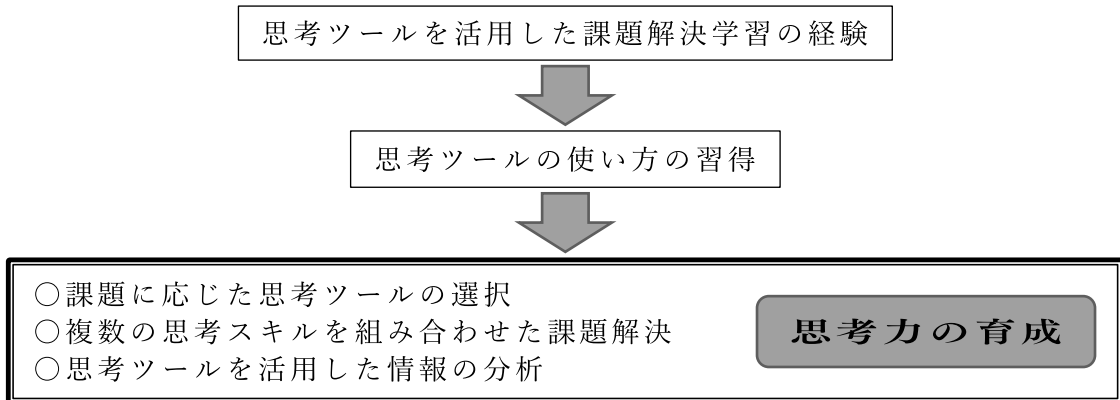
また、集団解決（学び合い）の場面では、対話型の授業を行っている学校が多いと思うが、全ての児童生徒が真剣に学び合い、語り合う授業を実現することは容易ではない。一部の児童生徒のみの話し合いになっていたり、音声認識の得意な児童生徒が活躍する授業で終始したり、意見交換が活発化しているようでも、話し合いが堂々巡りになり、授業のねらいから離れてしまったりすることがある。

それらの課題を解決するためにも、思考ツールを活用したい。思考ツールは、「個々の頭の中にあるイメージやバラバラになっている情報を外に出して整理すること」を手助けするものでもある。図表にすることで、可視化された情報の関係が見つけやすくなり、そこから「比較する」「分類する」「関連付ける」「構造化する」「評価する」などの思考を促すことができる。集めた情報を操作し、共有が図られると、当初は無関係に見えたもの同士に実は関係性があることや、自分と友達と同じ事象に対して見方や考え方が違うことに気付いたりする。思考ツールを活用することで、児童生徒が対話に参加しやすくなり、その日の授業のねらいに向かって学んでいく姿が期待できると考える。

つまり、他者と共に思考ツールを用いて学習することで、児童生徒は協働的に学び、多様な観点から考察し課題に迫ることで、物事を多面的・多角的に考え、学びはさらに深まっていくと考える。



(2) 思考ツールを活用した思考力の育成

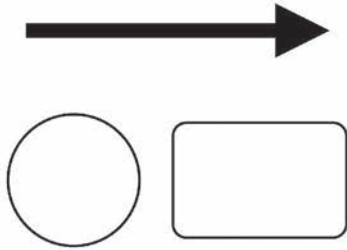


(3) 発達段階に応じた思考スキル・ツールの選択と活用力

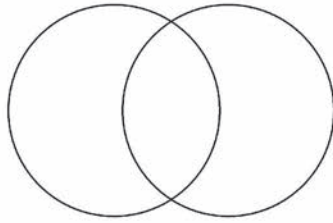
	活用力（目指す姿）	思考スキル	思考ツール（丸番号は対応する思考スキル）
小学校 低学年	◎ 簡単な思考ツール・スキルの名前や使い方を覚え、それらに即した思考ができる。	① アイデアを出す ② 関係付ける ③ 振り返る ④ 要約する ⑤ 位置付ける ⑥ 意思決定する ⑦ 仮定する ⑧ 疑問をもつ ⑨ 計画する	・ 矢印と囲み ・ ベン図 ^{⑳㉑} ・ イメージ（ウェビング）マップ ^{①②⑪⑳} ・ くま手チャート ^{①⑪⑱㉑} ・ Xチャート ^{①⑭⑰⑱} ・ Yチャート ^{①⑭⑰⑱} ・ Wチャート ^{①⑭⑰⑱} ・ マトリックス（表） ^{⑯⑰⑱㉒㉑} ・ データチャート ^{⑯⑳㉑㉒} ・ KWL ^{③⑨⑩⑭⑰} ・ PMI ^{⑤⑱㉒㉑}
小学校 中学年	◎ 思考ツールの種類や使い方を覚え、思考ツールを使うことにより、複数の思考スキルを用いながら課題を解決しようとする。	⑩ 見通す ⑪ 広げてみる ⑫ 構造化する ⑬ 順序立てる ⑭ 焦点化する ⑮ 推論する ⑯ 整理する ⑰ 多角的に見る ⑱ 多面的に見る	・ ステップチャート ^{⑦⑨⑫⑬㉑} ・ クラゲチャート ^{②④㉑} ・ コンセプトマップ ^{②⑫} ・ キャンディチャート ^{⑦⑩⑮㉑} ・ プロット図（ダイアグラム） ^{⑫⑭⑰⑲㉒㉑} ・ ピラミッドチャート ^{⑫⑭} ・ フィッシュボーン ^{⑫⑭⑳} ・ 座標軸 ^{⑤⑯㉒㉑} ・ バタフライチャート ^{⑰⑱㉑} ・ 同心円チャート ^{②⑩⑮㉑} ・ 情報分析チャート ^{⑩⑳㉑} ・ フリーカード ^{⑪⑳㉑} ・ 短冊 ^{⑫⑬} ・ 質問・疑問マトリックス ^{⑧⑪⑭} ・ 六色帽子 ^{⑯⑰⑱}
小学校 高学年 ・ 中学校	◎ 課題解決に適した思考スキルを判断・選択し、スキルに応じて思考ツールを選択、活用しながら課題解決に取り組むことができる。	⑲ 単純化する ⑳ 抽象化する ㉑ 判断する ㉒ 比較する ㉓ 評価する ㉔ 分析する ㉕ 分類する ㉖ 変化をとらえる ㉗ 予想する ㉘ 要約する ㉙ 理由付ける ㉚ 類型化する	・ など

※「思考スキル」と「思考ツール」の対応については、「シンキングツール～考えることを教えたい～」（黒上 2012）を参照

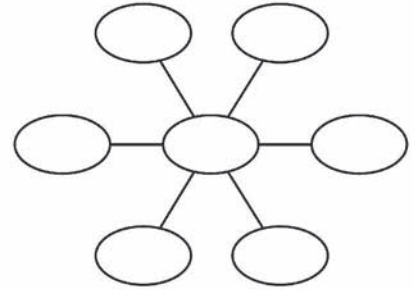
(4) 思考ツール一覧



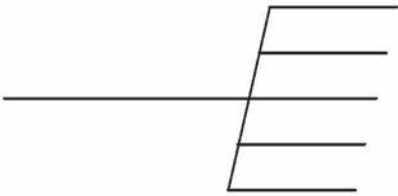
矢印と囲み



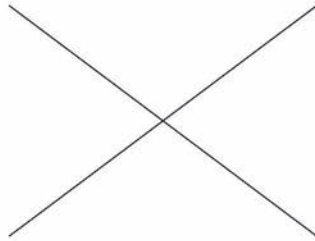
ベン図



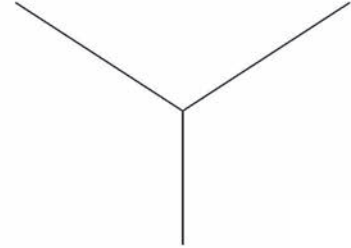
イメージ (ウェビング)
マップ



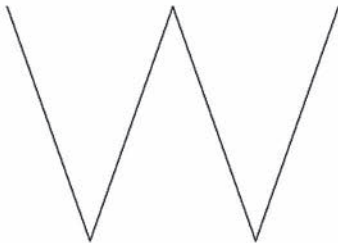
くま手チャート



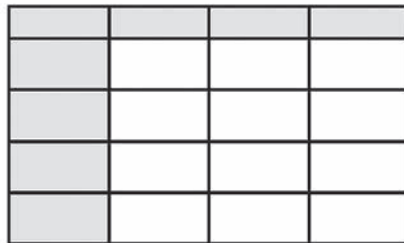
Xチャート



Yチャート



Wチャート



マトリックス (表)



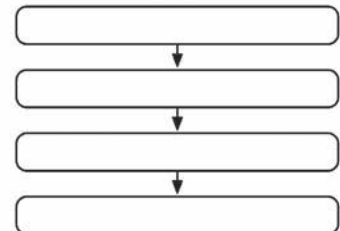
データチャート

K What I know 知っていること	W What I want to know 知りたいこと	L What I learned 学んだこと

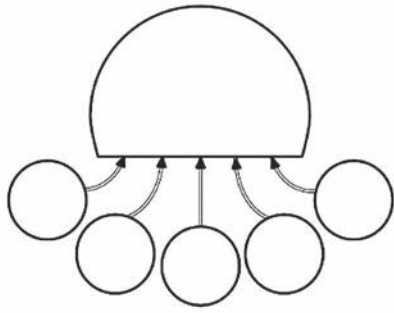
KWL

P Plus プラス いいところ	M Minus マイナス だめなところ	I Interesting インテレスティング おもしろいところ

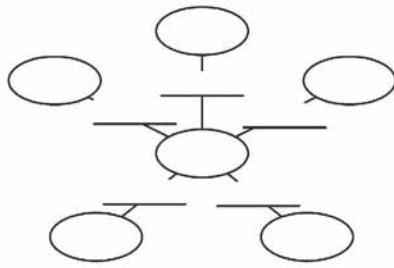
PMI



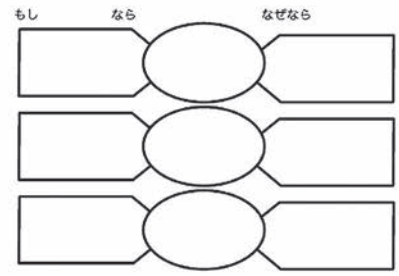
ステップチャート



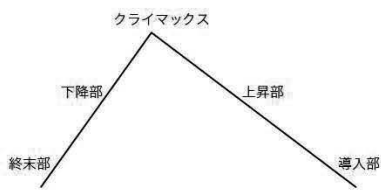
クラゲチャート



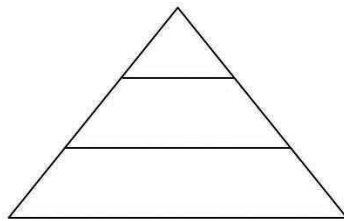
コンセプトマップ



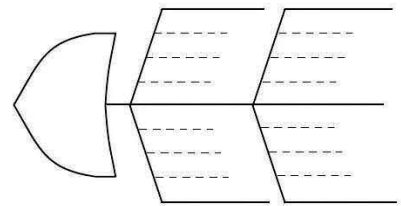
キャンディチャート



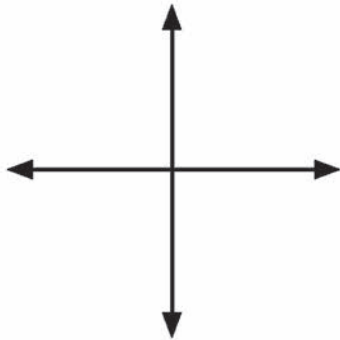
プロットダイアグラム



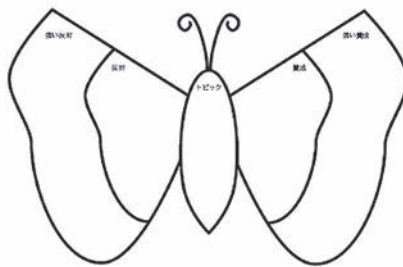
ピラミッドチャート



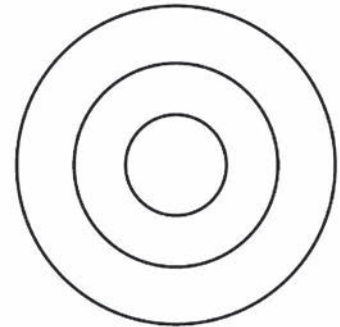
フィッシュボーン



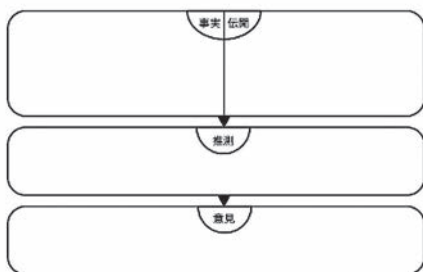
座標軸



バタフライチャート



同心円チャート



情報分析チャート

フリーカード
短冊
質問・疑問マトリクス
六色帽子

3 研究の視点

(1) 自己の学習を見直し、振り返る主体的な学び

① 興味や関心を高める

切実感（～したい）のある課題設定

前年度の重点であった「視点 1－(2)見直しをもつ」「視点 1－(5) 振り返って次へつなげる」活動を大切にすることで、児童生徒に達成感や充実感をもたせることができた。今年度は、より主体的に学習に取り組むことができるように、課題設定の仕方を工夫したい。

単元の導入時に行う課題設定の場面において上記の「切実感のある課題」を「考えたいような課題」とおさえ、この課題の設定方法を工夫することで、単元を通して主体的に学び続けることができる児童生徒を育成できるのではないかと考える。

○切実感（～したい）のある課題設定の工夫

児童生徒への問題との出会わせ方を工夫することにより、問題を解きたい（考えたい）という切実感が生まれ、単元を通じた興味・関心の持続につながる。

活用例

切実感（～したい）が生まれる課題設定

小学校第4学年

社会科「ごみはどこへ」(教育出版) → 「くつ下くんの旅」

水泳学習のあとに見つかった持ち主不明の靴下を紹介する

持ち主がないので処分することにしよう

あれ？ 靴下はどのごみとして捨てたらいいのだろう？

単元の課題「留萌のごみ処理について調べてみたい！」

「ごみの量は？」「種類は？」「どこで？」・・・各時間の学習課題



②見通しをもつ

能動的な学習に向かう課題の提示

見通しをもつ場面とは、児童生徒が課題を共有し、どのようにすれば課題を解決できるかについてイメージをもつ場面である。

この場面では、「知りたい」「できるようになりたい」という気持ちを高めるために、児童生徒の視点に立って、学習内容に迫る動機付けを行うことが大切である。

- ・これまでの認識と現実（新たな情報）のずれに気付き、解決の意欲を高める。
- ・体験活動を通して、実社会や実生活における矛盾を知り、解決の必要感を高める。
- ・学習対象への憧れや可能性を感じ、課題への挑戦意欲を高める。

さらに、児童生徒の学習意欲には、単元、本時の学習課題の設定が大きく関連する。児童生徒の「知りたい」「できるようになりたい」などの気持ちを高め、能動的な学習に向かう課題を設定していくことが大切である。

○深く考え、自ら解決したくなる課題の設定

課題との出会わせ方を工夫し、解決に向けた多様な見方・考え方が生まれる課題を設定することで、深く考えようとする意欲が高まる。

○集団で解決する必要性がある課題の設定

他者に相談したくなる課題、他者との学び合いによって解決できそうな課題を設定することで、協働的に解決していく必要性が生まれる。

活用例

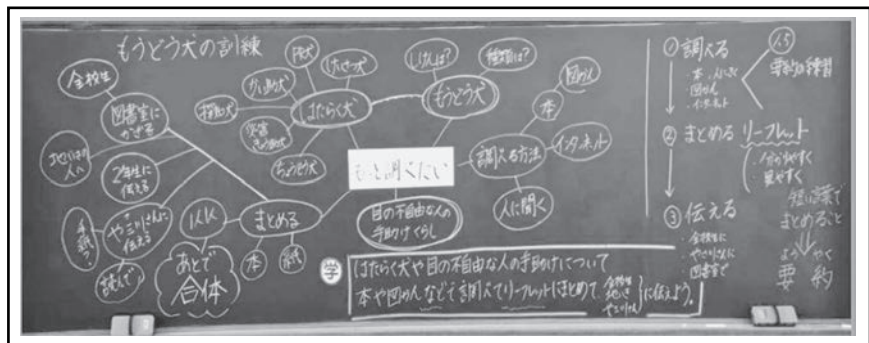
思考ツール『イメージマップ』を活用した学習課題の設定

小学校第3学年

国語科

- ◆盲導犬を扱う教材文において、実際に盲導犬に出会う体験活動を設定した。

- ◆調べたことを誰に伝えたいか、調べる手段や調べたことの表現方法（リーフレット）、そのために必要な学習などについて、互いの興味や疑問を伝え合わせ、児童の言葉や思いをつないでイメージマップにし、単元を通した目的意識をもつことができた。



体験活動を通して沸き起こる興味や疑問から課題設定し、明確な目的意識をもつ姿

目的やゴールを明確にした解決に向けた方向付け

児童生徒が確実な見通しをもつためには、学習の目的やゴールを明確にすることが大切である。さらに、課題を解決するにはどうすればよいのか、その方法について予想することで、解決に向けた意欲を高めることにつながる。

その際は、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を意識し、どのように視点を捉え、どのように考えるかを具体的にイメージする必要がある。

- ・ 解決のために使える情報や知識・技能の想起
- ・ 見出した関係性や傾向から、解決方法の選択や創造
- ・ 既習事項や経験から個での思考や、他者との考えを共有した解決方法の吟味

○解決するための方法について吟味・共有する時間の設定

主体的に活動に取り組むことができる。ただし、各教科の特性によって、方法や内容に違いがある点に留意する。

(例) 目標となるモデルを示す、予想や仮説を考えさせる場面・考えを交流する場面の確実な位置付け 等

○自己選択や自己決定できる場の設定

児童生徒の積極的な取組を促すとともに、振り返りに生かすこともできる。

活用例

思考ツール『くま手チャート』を活用した解決方法の吟味・共有

中学校第1学年

家庭科

◆教科書や既習で活用したワークシートを参考に、繊維の性質をくま手チャートに書き出し、その特徴を見付けるための実験方法を考え、結果の予想を立てた。

◆これまでの学習をもとに、実験方法を自分たちで考える難しい課題であったが、生活班(6~7人)で話し合うことで、対話により考えが深められた。また、実験結果の仮説を立て、くま手チャートにまとめることで、先の見通しをもつことができた。

繊維を当てよう			
1 衣服の素材と繊維の種類(2) P119を基に繊維の性質の違いから繊維の種類を当てよう。 下の「くま手チャート」に繊維の特徴がわかる実験の方法と結果を考えよう。			
	繊維の特徴	実験の方法	結果の予想
(2) 班の 繊維名 (麻)	① ごわごわしている	→ 角張っている	→ 1層ごわごわしている
	② 水を吸く吸う	→ 水に濡れた時	→ 水を吸く吸った
	③ 水中で強度が解く	→ 水に入れる(解く)	→ 強くなる
	④ 防湿性が高い△	→ くたくしに濡る	→ しわができる
	⑤ 涼しい	→ 目が大きいから	→ 大きい
	⑥ アロン	→ 中であたる	→ 何もあたる

他者と考えを共有・交換する時間の確保と可視化の工夫で、明確な見通しをもつ姿

③振り返って次へつなげる

自らの学びの成果やその過程を見つめる振り返り場面の設定

振り返りの場面とは、課題の解決に向け得られた考えや結果を自分の言葉でまとめたり、自らの学びの過程を振り返ったりする場面である。見通しの場面での予想や仮説に対してどのような結果になったのかを考察したり、学習の成果から新たな疑問や課題が生まれたりすることもある。

ここでは、学習のまとめにとどまらず、学習したことをじっくりと見つめ直し、自分もっている知識や技能を関連付けたり、自ら学習活動を意味付けたりするなど、学びを深めていくことが大切である。そのため、

- ・得られた結論について、友達と話し合ったり、別の場面に活用したりして、より理解を深める。
- ・既習の学習内容や実生活等と関連付けることで、学んだことの意味に気付き、新たな学びにつなぐ。
- ・自己の調べ方や学び方等を振り返り、自分の考えの変容や成長を自覚する。

など、児童生徒自身が、自らの学びの成果やその過程を見つめる場面の設定が重要である。

○「学習内容」「学びの過程」それぞれの視点から振り返る自己評価

「学習内容」～知識・技能の定着，既習事項や経験との関連性，実生活への活用

「学びの過程」～自己の学びに対する変容や成長，課題の解決に役立った事柄や方法，新たな疑問や課題へのつながり

○学びの有用感が高まる相互評価

(多くの人との関わりの中で学ぶ価値や自己の成長の実感)

他者からの評価を受けることで、自分では気付かなかった自己の考え方や解決の過程のよさに気付け、他者を評価することで、気付きや考え方の違いを知り、自己の考えを見つめて、自分なりに見直したり、新たな見方・考え方を広げたり深めたりする。

○新たな課題，次の課題につながる振り返りの視点の設定

「まだよく分からないこと」「もっと知りたいこと」の視点の設定や、逆に分かったことを他者に伝える場面を設定することで、自分の考えが整理され、新たな疑問や次の課題が生まれる。

活用例

思考ツール『PMI シート』を活用した振り返り

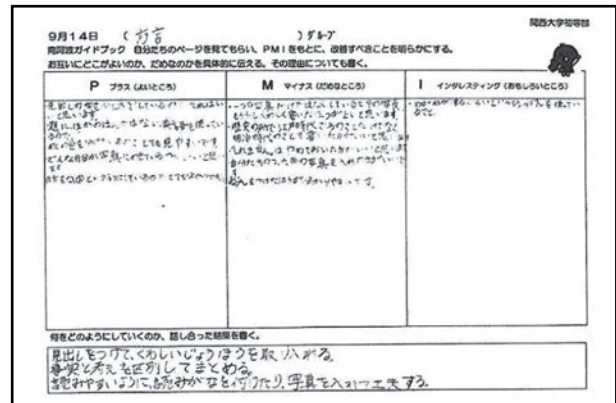
小学校第4学年

総合的な学習の時間

◆自分たちの地域とは異なる人・もの・ことにあふれている場所への宿泊学習での感動体験をガイドブックにまとめ、自分たちのページを見せ合いながら評価し合った。

テーマごとに評価し合うペアを組み、PMIの3視点で具体的によい点やだめ

な点を書き込ませ、それを見せ合いながら対話(説明・質問)することで、改善点に気づき、よい点やおもしろい点も見つけてもらえたことで、モチベーションが向上した。



相互評価から次につながる新たな課題を得られて、学習意欲を高めた姿

活用例

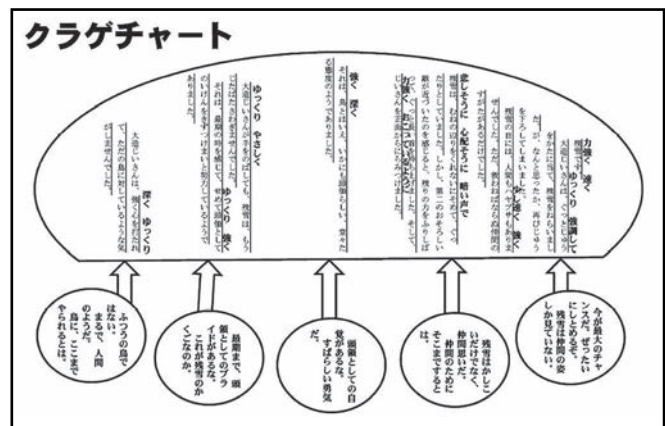
思考ツール『クラゲチャート』を活用した振り返り

小学校第5学年

国語科

◆「大造じいさんの残雪への思いが伝わるような朗読の仕方を考えよう」の学習課題のもと、自分がどのように読みたいか考え、互いの意見を聞いた後、終末場面でクラゲチャートを活用して朗読を行った。

◆クラゲチャートの頭の部分には、どのように朗読したいか自分の考えを書く、足の部分には、なぜそのように読むのか、大造じいさんの気持ちを想像しながら書くという個人学習を行った。その後、話し合い、自分の考えを修正するなど、自分の考えを見直し、新たな考えや気づきを終末の朗読に生かすことができた。



新たな考えや気づきを終末の活動にすぐ生かし、自己の変容や成長を実感できた姿

(2) 思考を広げ、確かな学びに向かう対話的な学び

①互いの考えを比較する

目的を明確にしたペア・グループ学習

児童生徒が課題意識を高めたり、解決の方法や手順を理解したりしながら、自分の考えをもつことができた次の段階では、対話を通して多様な考えに触れ、自分の考えをさらに広げさせたり深めさせたりすることが大切である。1年次目は、思考ツールを用いて個人の思考を可視化し、個人内やグループで対話しながら考えを整理・深化する場面を中心に検証してきた。思考ツールを用いたことで話し合いが活性化するという成果が得られた一方で、対話の質が課題となった。

そこで2年次目は、個人個人が思考ツールを用いて整理した考えを持ち寄ってペアやグループで対話する様子から、どのように思考を広げたり深めたりして確かな学びへと向かっていったのかを検証したいと考える。ただ、対話とはいっても集まって自分の考えを話すだけでは価値がないと考えるので、「何のために集まっているのか」という目的を明確にして対話させるようにしたい。さらに、どんな対話をしていれば思考を広げたり深めたりして確かな学びに向かったと考えられるのかを明確にし、それを見取る具体的な評価規準を設定したい。

○対話する目的を明確にしたペア・グループ学習

「これから何について話し合うのか」という論点を明確にするため、集団解決などの対話する機会の前に、課題をもう一度確認したり、対話の方向性（対話により考えを収束させるのか、多様な考えを出させるか等）を示したりする。

活用例

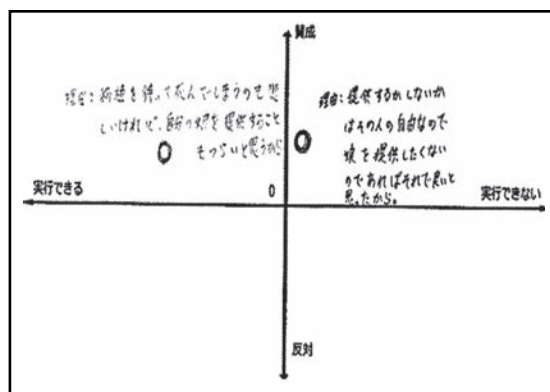
思考ツール『座標軸』を活用したグループ学習

中学校第2学年

道徳科

◆1つ目の資料「娘をドナーに私は出来ない」を配付し読んだ後、臓器提供に賛成か反対かを理由とともに記入する。記入後、グループ内で交流する。

◆2つ目の資料「家族の場合に迷う臓器提供」を配付し読んだ後、賛成か反対かをもう一度考える。2つめの資料及びグループ内の話し合いにより自分の考えを変更する場合は、赤色で記入し、思考の変容を分かりやすくなるようにする。座標軸に表現した自分の考えを持ち寄りグループ内で交流することによって、自分の考えの変容を再確認したり、友達の考えの変容を知ることで自分の考えを深めたりすることができた。



思考ツールに整理した考えを交流し合うことで、思考を広げたり深めたりした姿

②思考を表現に置き換える

児童生徒の思考を見える形にする（可視化）

児童生徒個々が発言しても、自分の考えを言いつばなしでは思考の広がりや深まりに欠ける。互いの発言の内容について、相違点や共通点を理解するために、思考の可視化は、とても重要である。

○可視化の目的とそのよさの共有

《可視化するよさの例》多様な考えの共有、学びを修正したり関係付けたりできる。

《可視化する対象例》課題や解決方法を決定するまでの過程、互いの考えの相違点や関連性、自分の考えや意識の変容。

ただし、思考の可視化は、あくまでも思考を広げたり深めたりする方法であり、可視化することが目的にならないように、指導者は意識して授業改善を行っていかねばならない。

※関連する「思考ツールの活用」については、7～10ページを参照のこと。

活用例

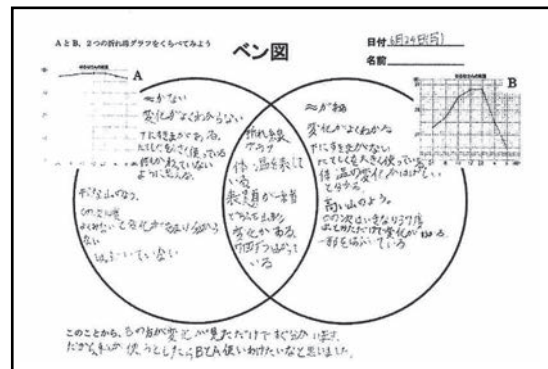
思考ツール『ベン図』を活用した個人思考

小学校第4学年

算数科

◆折れ線グラフの用途や適切なかき表し方に気付くために、一目盛りの設定が異なる折れ線グラフを比較する。

◆同じデータなのに、一目盛りの設定が異なるのは何によるのか、見かけが違っているにも関わらず共通することは何か、などについてベン図にまとめた。それにより、多項目を整理しながら記載でき、その後の集団解決での意見交流がスムーズに運び、さらに自分なりに一言でまとめを書くことができた。



比較する視点を定めて分析・交流することで、効果的な視点到り付いた姿

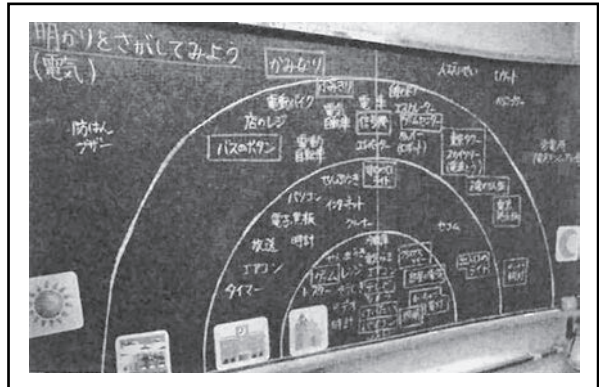
活用例

思考ツール『同心円（半円）』を活用した集団解決

小学校第3学年

理科

- ◆身の周りにはある明かりにはどんなものがあるかを探し、付箋に個々の考えを明記させ、「家・学校・地域（街）」に分類した上でグループ交流および全体交流を行った。
- ◆グループ交流では、同心円を活用することで、混在する3つの視点で分類・整理する過程で、視覚的に明かりを多く利用している場所について気付き、新たに見付けた項目を追加することができた。
- ◆全体交流では、グループで整理した情報を共有するための板書を行い、そこに時間軸での整理を加えることで、生活環境や生活経験、知識の差を埋めながら情報共有することにもつながった。グループで一度話し合ったことによって、自信をもって考えを発表する児童の姿も見られた。



情報共有・整理・分析により、新たな疑問や知識を得て、考えを確かにした姿

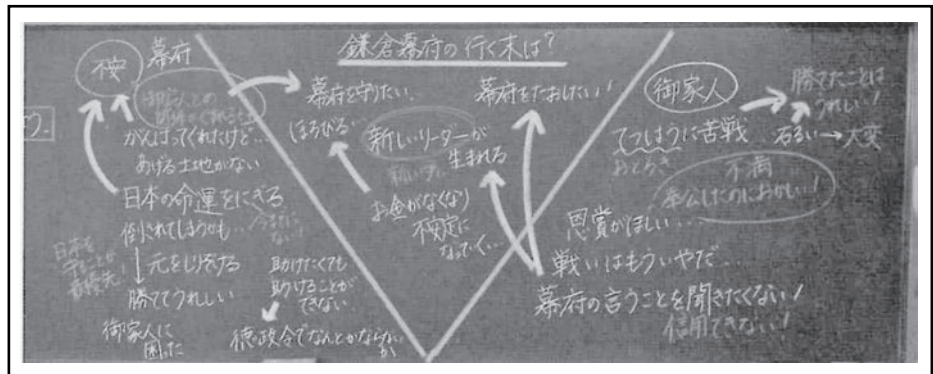
活用例

思考ツール『Vチャート』を活用した集団解決

小学校第6学年

社会科

- ◆元寇について鎌倉幕府と御家人の行動や気持ちをとらえながら考察し、今後の鎌倉幕府について考えた。



- ◆鎌倉幕府と御家人の行動や気持ちをVの左右下に、真ん中には鎌倉幕府がその後どうなっていくのかをグループで話し合いながら書き込ませた。視覚的に情報があることで、既習学習の内容を想起しながら話し合うことができた。
- ◆グループで考えた各エリアについて学級全体で交流し、板書で整理した後、鎌倉幕府がどうなっていくのかを議論した。児童は、幕府と御家人の関係と関連付けながら見通し、幕府側と御家人側の両方の立場から多角的に考察することができた。

考えを他者と共有し、他者の思考の理解の促進から、物事を多角的に考察できた姿

4 学習指導案の型

《1 ページ目》

〇〇科学習指導案
 日時 令和〇〇年〇〇月〇〇日 () 〇校時
 児童生徒 〇〇市立〇〇小(中)学校 第〇学年〇組 〇〇名
 指導者 〇 〇 〇 〇

1 単元名 (使用する教材名「〇〇〇〇」)
 2 単元について
 (1) 教材観
 (2) 児童(生徒)観
 (その教科に関する)

「(1) 教材観」「(2) 児童観」の中に指導の方針についても含めて記述し、教師の授業構想を明確にする。

◆教材観…教材の価値

- ・既習事項との関連、教科等の中での位置付け
- ・本単元を学習することにより、児童生徒にどのような力をつけたいのか。
- ・他教科との関連

◆児童(生徒)観…児童(生徒)の実態

- ・これまでの学習経験で身に付けた力
- ・発展の可能性

《2 ページ目》

3 研究の視点との関わり
 (1) 視点1
 (2) 視点2

4 単元の目標
 5 単元の評価規準

それぞれの研究の視点に関わって、具体的な指導方針を記述し、授業構想を明確にする。

児童(生徒)の立場に立った表現で記述する。その際、観点別学習状況の評価を考慮して整理すること。

年間指導計画をもとに、単元の各観点の評価規準を明記する(文末は児童生徒の学びの状態)。

《3 ページ目》

6 単元の指導計画 (〇時間)

時間	時数	主な学習内容および学習活動	■評価規準
		□課題 □まとめ 【】活動形態	() 評価方法 【】研究の視点

評価方法は観察だけでなく、多様で具体的な評価資料を集めること。

《4 ページ目》

7 本時の実際
 (1) 本時の目標と評価規準
 (2) 本時の展開 (〇/〇)

過程	○主な学習活動 () 活動形態 ・予想される児童生徒の発言等	◇教師の主な働きかけ *留意点	■評価規準 () 評価方法 ▲努力を要すると判断される児童生徒への手立て

- ・課題□, まとめ □で囲む。
- ・過程は「導入」「展開」「終末」を基本とする。
- ・主な学習活動は、本時の目標と正対するまとめの活動にする。
- ・思考ツールを明記する。

- ・本時の評価規準と評価方法の具体を評価場面に記載する。
- ・全ての児童生徒が本時の目標を達成できる手立てを記載する。



Ⅲ 研究員・研究協力員の実践



1 提案授業

- 苦前町立古丹別小学校 第6学年 社会科「5 全国統一への動き」
佐治 麻里子 研究協力員
- 天塩町立天塩中学校 第1学年 道徳科「みんな同じがいいのか」
鴻上 優美 研究協力員

2 思考ツールを用いた授業実践

3 思考ツール説明書

小学6年 社会科「5 全国統一への動き」

苫前町立古丹別小学校 佐 治 麻里子 研究協力員

1 はじめに

(1) 単元について

本単元は、現行の学習指導要領における(1)オ「キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること」に基づいて設定された単元である。

児童はこれまでに、源氏と平氏を中心とした武士の起こりや政治の中心が貴族から武士に移ったことを調べることを通して、足利氏を中心となって室町幕府を作ったことや、全国的に武将の勢力が強まってきたことを学んでいる。

そこで本単元は、応仁の乱の後、全国の大名が争いを繰り返すようになった時代背景を捉えた上で、3人の武将が武士による安定した政治を目指したことや天下統一に果たした役割を理解できることをねらいとしている。

単元の導入では、長篠の戦いの絵図から気付いたことや疑問を交流する。その上で3人の武将が戦乱の世の統一に関わったことをあらかじめ伝え、学習問題「狂歌をもとに3人の武将が全国統一にどのような役割を果たしたのか考えよう」を設定する。その後、3人の武将の業績やエピソードを調べる学習を通して、3人が全国統一に深く関わったことを理解する。

単元の終末では、3人の武将が天下統一に果たした貢献度を考え、ランキングを決めるという活動を取り入れる。この活動を通して、3人の業績を比較しながら多面的・多角的にとらえ、信長が新しい考えを取り入れながら全国統一を目指したことや秀吉が信長の政治を引き継いで全国統一を成し遂げ、刀狩などの政策を進めて社会のしくみを整えていったこと、家康がより安定した政治を行うために江戸幕府を開いたことを考え、3人が全国統一へ果たした役割を理解できるようにする。

この学習によって、大名や庶民に対する厳しいきまりや身分制度、鎖国等確立した江戸幕府の政治、そのような中で隆盛してきた文化や学問について追究する学習へと発展させる。

2 研究の視点

(1) 自己の学習を見通し、振り返る主体的な学び

- ①興味や関心を高める
- ②見通しをもつ
- ③振り返って次につなげる

単元の導入では、100年以上続いた戦国の世が、織田、羽柴(後の豊臣)、徳川の3人の武将によって統一されたことを伝えた上で、狂歌「織田がつき、羽柴がこねし天下餅、座りしままに食ふは徳川」を提示する。狂歌の意味を問うことで、「どういう意味なのだろう?」「3人の役割を考えてみたい!」という切実感をもたせる。さらに、学習問題「狂歌をもとに3人の武将が全国統一にどのような役割を果たしたのか考えよう。」を設定することにより、単元を通して児童が何を調べて何を追究するのかが明確になり、主体的に学習に取り組むことができる。

また、学習問題は追究活動をしていく際の指針となるものである。そのため、何を追究するために調べているのかを意識させるために、毎時間学習問題を確認する(②③)。

単元の終末では、調べたことをもとに3人の武将の天下統一への貢献度を考えら

ンキングをつける。この活動についても、単元の最初に伝えておくことで、見通しをもち学習を進めることができる（①②）。

ランキングをつけるには3人の業績を知識として獲得していることが前提である。そのために知識の定着度を確認するミニテストを実施する。知識が定着していない児童については、本時の導入で武将になりきってインタビューをする場面で改めて補完する。また、本時の終末で振り返る場面を設定し、自分の考えの変容や成長を自覚させる（③）。

（2）思考を広げ、確かな学びに向かう対話的な学び

①互いの考えを比較する

②思考を表現に置き換える

本単元では、思考ツール「Xチャート」を活用する。Xチャートには思考を分類して可視化できるよさがあるため、信長、秀吉、家康の業績やエピソードについて調べたことを整理するために使用する。視点は、「したこと」「外国との関係」「エピソード」「人物の評価」とする（②）。これらを武将ごとにXチャートにまとめることで、その武将の業績が分かりやすくなるだけではなく、3人の武将を比較しながら活用することもできる（①）。視点の1つには、児童が武将の業績が後世に与えた影響を考えるために人物の評価を取り入れている。調べ学習の後に学習のまとめとして武将を評価することで、5時間目のランキングを付ける活動につなげる。Xチャートを調べ学習に使うだけでなく、児童が自主学習などで調べたことを追記するように促すことで、3人の武将の思いや願いにより気付けることを想定している。

単元の終末には、3人の武将にランキングを付けて意見交流をする活動を設定した。これは、3人の武将が全国統一にどのような役割を果たしたのかを対話を通して深く理解するためのものである。ランキング自体は児童の主観によるものであるため、個人によって順位が異なることが想定される。児童間の考えに「ずれ」があることにより、対話の必然性が生まれる（①）。その上で、調べたことをもとに交流することで、意見が精選されていき、3人が全国統一に果たした役割が明確になる。意見交流は、これまで調べたことやXチャートに児童が追記していったことが根拠になる。根拠を明確にしながらか対話することで、「全国統一における3人の武将の果たした役割に気付く」という深い学びにつながる。

3 単元の目標

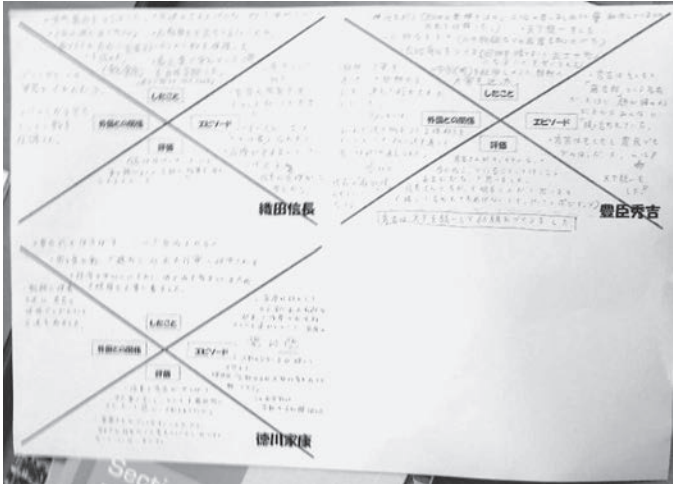
（1）単元の目標

- ・戦国の世の中が統一されていく様子に関心をもち、信長、秀吉、家康のはたらきを調べ、全国統一に果たした役割を理解することができるようにする。

（2）評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
全国統一への動きに関心をもち、信長、秀吉、家康の業績について意欲的に調べようとしている。	全国統一がどのように進められていくのかについて学習問題を考え、表現している。 信長、秀吉、家康の業績を比較したり関連付けたりしながら、それぞれが行った政治の特徴を考え、表現している。	信長、秀吉、家康の業績について資料を活用して調べ、まとめている。	信長、秀吉、家康の業績と全国統一に果たした役割を理解している。

4 指導計画（10時間）

時数	<p style="text-align: center;">主な学習内容および学習活動</p> <p style="text-align: center;"> <input type="checkbox"/>課題 <input type="checkbox"/>まとめ 【 】活動形態 </p>	<p>■評価規準（ ）評価方法</p> <p style="text-align: center;">【 】研究の視点</p>
①	<p>戦国の世の中はどのような様子だったのだろう。</p> <p>・長篠の戦いの絵図から気付いたことや疑問に思ったことを書く。【個】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習問題</p> <p>狂歌をもとに3人の武将が全国統一にどのような役割を果たしたのか考えよう。</p> <p>・貢献度ランキングを付けることを知らせる。</p> </div>	<p>■全国統一への動きに関心を持ち、信長、秀吉、家康の業績について意欲的に調べようとしている。（行動観察）</p> <p>【視点1①】 興味や関心を高める</p> <p>■全国統一がどのように進められていくのかについて学習問題を考え、表現している。（記述）</p> <p>【視点1②】 見通しをもつ</p>
②	<p>信長はどのようにして全国統一を目指したのだろう。</p> <p>・信長の業績についてXチャートを用いて「したこと」「外国との関係」「エピソード」「人物の評価」を整理する。【個】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>信長は新しい取組を行って全国統一を目指した。</p> </div>	<p>■信長の業績について資料を活用して調べ、まとめている。（記述）</p> <p>【視点2②】 思考を表現に置き換える</p>
③	<p>秀吉はどのようにして全国統一を進めたのだろう。</p> <p>・秀吉の業績についてXチャートを用いて「したこと」「外国との関係」「エピソード」「人物の評価」を整理する。【個】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>秀吉は信長の政治を引きつぎ、社会のしくみを整えて全国を統一した。</p> </div>	<p>■秀吉の業績について資料を活用して調べ、まとめている。（記述）</p> <p>【視点2②】 思考を表現に置き換える</p>
④	<p>家康はどのようにして全国を支配したのだろう。</p> 	<p>■家康の業績について資料を活用して調べ、まとめている。（記述）</p> <p>【視点2②】 思考を表現に置き換える</p> <p>■信長・秀吉・家康の業績について理解している。（ミニテスト）</p> <p>【視点1③】 振り返って次につなげる</p>


	<ul style="list-style-type: none"> 家康の業績について X チャートを用いて「したこと」「外国との関係」「エピソード」「人物の評価」を整理する。【個】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>家康は平和な世が長く続くように大名を中心に支配した。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ミニテストをする。 	
⑤ 本時	<p>信長、秀吉、家康が天下統一に果たした役割を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3人の武将の業績をもとに貢献度順にランキングをつける。【個】 ランキングを交流する。【ペア】 持ち寄った考えからランキングを決める。【グループ】 狂歌を改めて提示し、学習問題に対するまとめをする。【全体】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>信長が新しい考え方を取り入れ、秀吉が仕組みをつくり、家康が平和な世になるようにおさめた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 信長、秀吉、家康の業績を比較したり関連付けたりしながら、それぞれが行った政治の特徴を考え、表現している。 (観察、ワークシート) 【視点2①】 互いの考えを比較する 【視点1③】 振り返って次につなげる

5 本時の実際

(1) 本時の目標

- 信長、秀吉、家康の業績を比較したり関連付けたりしながら、それぞれが行った政治の特徴を考え、表現することができる。

(2) 本時の展開 (5 / 5)

過程 (分)	○主な学習活動 () 活動形態 ・予想される児童の発言等	◇教師の主な働きかけ *留意点	■評価規準 () 評価方法 【 】 研究の視点 ▲努力を要すると判断される児童への手立て
導入 (7)	<ul style="list-style-type: none"> 3人1グループになり、3人の武将になり切ってインタビューをしよう。(グループ) 課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>信長、秀吉、家康が天下統一に果たした役割を考えよう。</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> インタビューの応答が苦手な児童には、ノートを参照しても良いと伝える。
展開 (30)	<ul style="list-style-type: none"> 天下統一に果たした貢献度が高いと思う人物順にランキングを付ける。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ランキングの根拠には、Xチャートを活用するように伝える。 *グループ以外の考えに触れる機会にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【視点2①】 互いの考えを比較する ■信長、秀吉、家康の業績を比

○ランキングを立ち歩いて交流する。
(ペア)



*互いの考えを交流するための話し合いであることを踏まえる。

較したり関連付けたりしながら、それぞれが行った政治の特徴を考え、表現している。
(観察, ノート)

○グループ内でランキングを決める。
(グループ)

- ・信長のおかげで大阪が今でも商人の町だと言われているよ。
- ・秀吉は検地でばらばらだったものを統一しているからすごいよ。
- ・江戸幕府は 150 年も続いたのだから家康が 1 位だよ。

*話し合いの結果、ランキングが決まらなくてもよいこととする。



○ランキングを交流する。(全体)

- ・私たちのグループは、信長を 1 位にしました。信長が武力で土地を治めたからこそ、この後につながっているからです。2 位は…
- ・ランキングを決めることができませんでした。どの武将も全国統一のために働いているからです。

◇ Y チャートを用いて、順位をつけた理由を板書することで、まとめにつなげる。

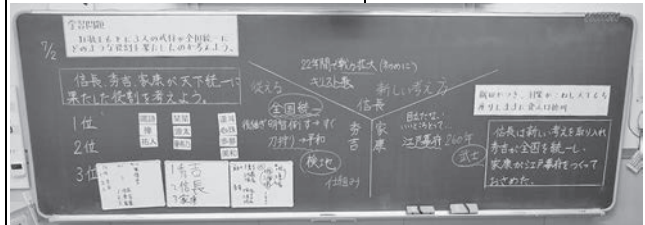


終末 (8)

○狂歌を提示する。

○板書を見ながら、学習問題に対してのまとめをする。

信長が新しい考え方を取り入れ、秀吉が仕組みをつくり、家康が平和な世になるようにおさめた。



○本時の振り返りを書く。
・自己の変容を振り返る。

*心を揺さぶられた意見について触れるよう促す。

【視点 1 ③】
振り返って次に
つなげる

6 成果と課題

(1) 自己の学習を見通し、振り返る主体的な学び

[成果]

- 単元の導入で狂歌を資料として用い、単元全体を通して解決したい「学習問題」が設定されたことで、児童が問題解決に向けた毎時間の学習に主体的に取り組んでいた [①]。
- 本時の学習では、3人の武将が天下統一に果たした役割を考えるとというゴールが明確に設定され、また、話し合うための資料がXチャートを用いて整理されていたことで、児童の「知りたい」「まとめたい」という主体的な取組につながっていた [②]。
- 学習問題が「常に目に見える形で掲示されていること」「教師が授業の導入場面でそれにふれること」で、課題意識と見通しをもって子どもが授業に臨むことができていた [②]。
- 3人の業績を知識として獲得させるために行ったミニテスト、ミニテストで補いきれなかった知識を獲得するために行った本時のなりきりインタビューは、子どもたちが主体的に学び続けるために必要なつながりを捉えさせることができた [③]。
- 子どもたちの振り返りからは、対話を通して思考が揺さぶられ、考えが変容したり深まったりした様子がみられた。これを更に一歩進めて、対話中にXチャートに加筆させるなどの手立てを講じることで、自分の学びをより自覚することができるのではないだろうか [③]。

[課題]

- 本時の課題に対して、自分がどのような学びをしていたか、単元の中でどんな力が身に付いたのか(単元の終わりでもあったので)、どんな疑問をもったのかという部分を振り返るなど、次につながる振り返りが必要であった [③]。

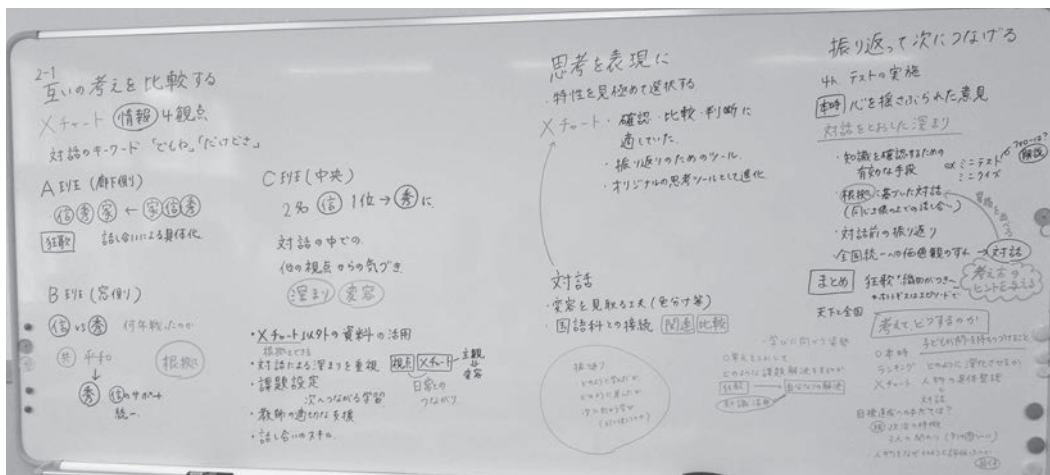
(2) 思考を広げ、確かな学びに向かう対話的な学び

[成果]

- Xチャートを用いることで単なる意見交流に終わらず、それぞれの役割(やったこと)を根拠として人物を評価でき、確かな学びにつながった [①]。
- 三武将のランキングについての対話中、話し合いの視点からずれてくる場面もあったが、授業者の補助発問が適切であったため、課題解決にむけた主体的な交流ができていた [①]。
- Xチャートが思考の根拠として機能していた。思考を表現に変換するツールとして有効であるため、全ての児童が真剣に学び合い、語り合う姿が見られた [①, ②]。
- Xチャートは、分類・整理することに有効であり、明確な観点のもとで話し合うことができた。[①, ②]。

[課題]

- 意図したとおり、価値観のずれが話し合いに深まりをもたせた。話し合いを可視化する手立てを講じておくと、最終的なランキング付けの根拠が明確になり、話し合いによる自己の思考の変容を自覚させられる [①]。



中学1年 道徳科 「みんな同じがいいのか」

天塩町立天塩中学校 鴻上優美 研究協力員

1 はじめに

(1) 単元について

①教材観

「自己を見つめる」とは、様々な行為をする自己について省み、その過程において現在の自分や将来こう在りたいという自分を見つめ直すことである。中学1年生の時期は、自分の姿を自らの基準に照らし合わせたり、他者との比較において自分を捉えたりするため、他者と異なることへの不安から、自分の至らなさに思い悩むことも少なくない。

本資料で大切にしたい道徳的価値は、「人それぞれがもっている固有のよさを認め、精一杯生きることが大切なのだ」と考える作者である相田みつをさんの人間味あふれる主張である。そこで、本授業では、まず「自分と他の人を比べること」に対する作者の指摘に気付かせることで、自分の特性を捉えさせ、さらに作者が、「どう生きたらよい」と言っているのかについて生徒一人一人が考える時間と互いの意見を確かめ合う時間とを十分に確保することで、自己の内面に目を向けて前向きに自分を信じて進んでいこうとする道徳的実践意欲・態度を引き出せるようにした。

②生徒観

5月に実施した道徳アンケートにおいて、本時の内容項目に関連する質問事項の結果及び、道徳の授業に関する質問事項の結果は以下の通りである。

質問事項	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
自分のよいところを知り、そのよさを伸ばそうと努力している。	50%	44%	6%	0%
道徳の時間の授業は好きだ。	22.5%	55%	22.5%	0%
道徳の授業では、自分の考えを伝えたり他の人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている。	50%	44%	6%	0%

また、本授業の導入にあたり、次のような事前アンケートも行った。

あなたは自分が好きですか。	好き		好きでない	
	40%		60%	
あなたは自分のよいところをいくつかあげられますか。	5個以上	3～4個	1～2個	なし
	35%	20%	30%	15%
あなたは自分と他の人を比べて喜んだり落ち込んだりしたことがありますか。	ある		ない	
	85%		15%	
あなたは自分の考えや行動が他の人と違っていたとき、自分の主張を通すことができますか。(理由も)	できる		できない	
	35%		65%	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が正しいと思ったら主張することは大切だから ・自分の考えを他の人に知ってもらいたい 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分が間違っていたら嫌だから ・自分が変に目立つのが嫌だから ・他の人と違ったら不安になるから ・他の人がやっている行動をしていると思ってしまう 		

自分のよいところに気付いている生徒が半数おり、自己肯定感が育っているよううかがえる。しかし、自分と他者を比べてしまう傾向が強く、自信のなさや恥ずかしさなどを理由に、自分を表現することに対して消極的な生徒が多いことが分かる。

2 研究の視点

(1) 自己の学習を見通し、振り返る主体的な学び

- ①興味や関心を高める
- ②見通しをもつ
- ③振り返って次につなげる

道徳科の授業が自分事として考える主体的な学びとなるよう、道徳アンケートや授業事前アンケートを実施し、日常生活の経験に根ざした価値観を客観的に把握する工夫をした(①)。さらに、本時のように同じ内容項目の学習が2回目の場合は、前時でのワークシートや感想記述も振り返りながら課題を設定するよう工夫している(①)。本時の導入では、切実感のある課題となるとともに学習内容に迫る動機付けにするために、前時に考えた「自分のよさを伸ばしていくために大切なことは何か」と、それから4か月間の日常においてどれだけ実践できているかという、実践していこうという思いと実際にはできていないという現実のずれに気付かせたいと考えた(①, ②)。

また、振り返りの場面では、振り返りシートに次のような項目を設け、継続的な振り返りを行っている。学習内容、学びの過程、それぞれの視点から振り返ることで、自分の考えの変容や成長を自覚することができると考えた(③)。

- ①今日の授業は自分のためになった。
- ②他の人の意見を聴き、いろいろな考え方を知ることができた。
- ③自分の考えをもち、記述することができた。
- ④「自分はどうか」と考えたり、自分の経験を思い出したりして考えを深めた。
- ⑤「これから～していきたい」「こうすればいいのか」などのように日常生活に生かしたいことを見つけられた。
- ⑥授業を通して、考えが変化したこと、広がったこと、深まったことを書こう。

(2) 思考を広げ、確かな学びに向かう対話的な学び

①互いの考えを比較する

多面的・多角的な思考を促すために、課題追求の発問を次の4つの段階を踏んで、価値に迫っていくように発問を工夫した。

- a. 共感的な発問「自分がトマト(メロン)だったら相手と比べも競争もしてないの?」「自分がトマト(メロン)だったら、並べられて、比べられたり、競争させられたりするの、いい迷惑なの?」
- b. 分析的な発問「なぜ、トマトとメロンを比べてもしょうがないのだろう」
- c. 投影的な発問「他の人と自分を比較してしまうのはなぜだろう」
- d. 批判的な発問「この詩を通して、相田さんは私たちに『どう生きたらいい』と言っているのだろう」

a から d へと段階が進むにつれ、資料内容を自分と重ねながら考え、d の段階では資料を客観的に見ながら自分自身の気持ちや考えを明らかにすることができると考えた。

さらに d の発問場面ではグループで対話させることにより、それぞれの考えを共有、吟味することができ、最後の発問(課題解決)に対する選択肢を明確にすることができると考えた。その際、対話の中で自分と「同じ考え」「似た考え」「ちがう考え」に触れたときに、自分の考えの何が深まったのか、何が広がったのかを可視化できるようワークシートを工夫した。そうすることで、対話を通しての互いの考えの相違点や関連性、自分の考えの変容に気付くことができ、確かな学びにつながると考えた。

②思考を表現に置き換える

本時では、思考ツール「PMI」（下記参照）を活用した。項目を「自分の中で自信があるところ（自分の好きなどころ）」「自分の足りないところ（自分の至らなさ）」「自分の長所なのか短所なのかよく分からないところ（自分の特徴）」とすることで、自分の内面をいろいろな側面から見つめ直すことができ、どれもが自分の特性であることに気付かせることへの手立てとした。

生徒は直感的なイメージで物事を判断しがちであるため、本時においても「自分の中で自信があるところ」と「自分の足りないところ」は根拠をもって書き出すことができると考えた。そのため、自分自身を評価しにくい、3つ目の項目「自分の長所なのか短所なのかよく分からないところ」を表出できるかが自分を見つめ直すカギとなる。生徒自身が自分自身の長所とも短所とも判断し難い特徴を考えることで、自分らしさを多面的に捉えることができ、道徳的価値の理解を深めることができると考えた。

【PMI】

P Plus プラス いいところ	M Minus マイナス だめなところ	I Interesting インテレスティング おもしろいところ

対象としたテーマについて、「いいところ (plus)」「だめなところ (minus)」「おもしろいところ (interesting)」の3つの視点から印象や意見を感じたままに書き出す。特に3つ目の「おもしろいところ」が重要であり、簡単に「いい」や「だめ」の判断が難しい事柄のイメージを膨らませることが大切である。シート全体を総合的に

見ながら、自分は3つの角度からどのように考えて、最終的にはどのように思うのか、意思決定を行うことに有効である。

3 指導計画（3時間）A-3（向上心・個性の伸長）の指導計画

月	主な学習内容および学習活動 ◆資料 ○発問 □気付かせたい道徳的価値【 】活動形態	■評価規準 () 評価方法 【 】 研究の視点
6	<p>◆まだ進化できる～イチロー選手の生き方～（教育出版）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分のよさを伸ばすには？</div> <p>1 自分の「いいところ」について考える。 2 「まだ進化できる」を読んで考える。 ○大記録を達成しているのになぜ「まだ進化できる」と言っているのだろう。【個】 ○イチロー選手が大記録を達成することができたのはなぜだろう。【ペア】 ○イチロー選手の言葉で自分が大切だと思った言葉と、その理由を書こう。【個】【全体】 3 授業の内容をまとめ、今後の生活につなぐ。 ○自分のよさを伸ばしていくために大切なことは何か。 【個】【全体】</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; text-align: center;">失敗を恐れずに小さなことを積み重ねることが大切</div>	<p>■自分のよさを伸ばすために意識したいことについて、考えを広げているか。 (ワークシート・発言) 【視点2①】 互いの考えを比較する 【視点1③】 振り返って次につなげる</p>

10 本 時	<p>◆トマトとメロン（日本文教出版）</p> <p style="text-align: center;">自分らしさって？</p> <p>1 事前アンケートの内容「自分のことが好きか」について話をする。</p> <p>2 「トマトとメロン」を読んで考える。 ○なぜ、トマトとメロンを比べてもしょうがないのだろう。【個】 ○他の人と自分を比較してしまうのはなぜだろう。【ペア】 ○この詩を通して、相田さんは私たちに「どう生きたい」と言っているのだろう。【個】【グループ】</p> <p style="text-align: center;">自分らしさは人それぞれ</p> <p>3 自分に置き換えて考える。【個】【ペア】【全体】 ○自分らしさとは何だろう。</p>	<p>■自分らしく生きることの大切さに気づき、自己を分析し、自分らしさについて深く考えることができたか。 (ワークシート・発言) 【視点1①】 興味や関心を高める 【視点2①】 互いの考えを比較する 【視点2②】 思考を表現に置き換える 【視点1③】 振り返って次につなげる</p>
3	<p>◆自分の性格が大嫌い！（東京書籍）</p> <p style="text-align: center;">自分との付き合い方とは？</p> <p>1 漫画を読んで自分の欠点や性格について考える。</p> <p>2 「自分の性格が大嫌い！」を読んで考える。 ○「自分との付き合い方」を覚えると、人生が楽になるのはどうしてだろう。【ペア】</p> <p>3 自分の欠点や短所にどう向き合うかを考える。 ○あなたの短所はどのようなところだろう。また、その短所はどのようなところで役立っているだろう。また、役立ちそうか。【個】【グループ】【全体】</p> <p style="text-align: center;">長所と短所は裏表。短所は長所にもなり得る。自分を客観的に見ることも大切</p>	<p>■自分との付き合い方を考え、自分のよさや個性を生かし、伸ばすことを自分の問題として考えることができたか。 (ワークシート・発言) 【視点1①】 興味や関心を高める 【視点2①】 互いの考えを比較する 【視点1③】 振り返って次につなげる</p>





4 本時の実際

(1) 本時の目標

- ・相田みつをさんの考え方を通して、自分らしさは人それぞれということに気づき、自己を分析し自分らしさについて深く考えることができる。

(2) 本時の展開

	<p>○主な学習活動と発問 【 】活動形態 □課題 □気付けたい道徳的価値 ・予想される生徒の発言等</p>	<p>◇教師の主な働きかけ *留意点</p>	<p>■評価規準（）評価方法 【 】研究の視点 ▲努力を要すると判断される生徒への手立て</p>
導入 (5)	<p>○具体的な事例からテーマについて考える。</p> <p>○課題をおさえる。 自分らしさって？</p>	<p>◇前時の感想「自分のよさを伸ばすために大切なこと」に触れる。 ◇事前アンケートより「あなたは自分が好きですか」「自分のいいところをいくつか言えますか」の項目に触れる。</p>	<p>【視点1①】 興味や関心を高める</p> <p>【視点1②】 見通しをもつ</p>

<p>展開前段 (20)</p>	<p>○詩を読む。</p> <p>○当事者同士は…という箇所に着目し考える。【全体】</p> <p>○比べることの無意味さについて考える。【全体】</p> <p>「なぜ、トマトとメロンを比べてもしょうがないのだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そもそも違うから(味, 種類, 色, 値段, 栄養価) <p>○事前アンケート「あなたは自分と他の人を比べて喜んだり落ち込んだりしたことがありますか」に触れ, 他の人と自分を比較してしまうのはなぜか話し合う。【ペア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安だから ・負けたくないから ・あっているか分からないから ・人より上に立ちたいから <p>○作者が作品に込めた思いについて考える。</p> <p>【個→グループ】</p> <p>「この詩を通して, 相田さんは私たちに「どう生きたらいい」と言っているのだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分しかもっていないものを生かせ ・人と比べず自分らしく精一杯生きる ・自分らしく百点満点に生きる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分らしさは人それぞれ。</div>	<p>◇補助発問</p> <p>「自分がトマト(メロン)だったら相手と比べも競争もしていないの?」</p> <p>「自分がトマト(メロン)だったら, 並べられて, 比べられたり, 競争させられたりするの, いい迷惑なの?」</p> <p>◇一人一人違っていて当たり前なのに, つい他者と比較してしまう人間の弱さについて触れる。</p> <p>*考えを深めるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そう生きると, どのような結果をもたらすか。 ・その生き方は, 幸せになれるのか。 	  <p>【視点2①】 互いの考えを比較する</p>  
<p>展開後段 (20)</p>	<p>○自分らしさについて考える。</p> <p>【個→ペア→全体】</p> <p>「あなたの自分らしさを分析してみましょう。」</p> <p>【個】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の中で自信があるところ ・足りないと感じているところ ・自分の長所なのか短所なのかよくわからないところ <p>【ペア→全体】</p> <p>それぞれの「自分らしさ」について話し合う。</p>	<p>◇思考ツール「PMI」を活用して, 自分の特性を整理させる。</p> <p>◇全体で交流しながら, 自分らしさの意味と比べることの意義について考えさせる。</p>	<p>【視点2②】 思考を表現に置き換える</p> <p>■自己を分析し, 自分らしさについて深く考えることができたか。 (ワークシート・発言)</p>
<p>終末 (5)</p>	<p>○詩の朗読を聞く。</p> <p>○学習を振り返って, 感想を書く。</p>	<p>*金子みすゞの「わたしと小鳥とすずと」を提示する。</p>	<p>【視点1③】 振り返って次につなげる</p>

5 成果と課題

(1) 自己の学習を見通し、振り返る主体的な学び

[成果]

- 前時のワークシートや感想記述を振り返りながら課題を設定することで、本時の内容項目について考える足がかりとすることができた。道徳科にもつながりがあることを子どもたちに意識させることができた [①]。
- 道徳アンケートや事前アンケートから、実践していこうという思いと実際にはできていないという現実のずれを認識させることは有効であった [②]。
- 今回のような道徳科において、振り返りシート（数値などを含む）で自分自身の変容を実感させる取組は有効であり、主体的な学びにつながっていた [③]。

[課題]

- 前時の代表的な意見やアンケートの結果を提示するなど、視覚に訴え、もう少し深く取り扱えたら、「なかなかできないよね」と人間の弱さにも触れられたのではないかと [①]。
- 自分のよいところを伸ばそうと努力しているが、そのよさに対する思いに自信がなくなったり、他人と比べられることを意識して揺らいでしまったりすることもある、ということに触れるとよかった [②]。
- 振り返りの記述内容は、課題に対しての正論を書いているだけのものも見られた。導入で思いと現実のずれを認識させることで、学びの変容に気付くこともできたのではないかと [③]。

(2) 思考を広げ、確かな学びに向かう対話的な学び

[成果]

- 対話を通して、自分では気付けなかった一面に気付くことができた生徒もいた。グループでの学習は効果的であった [①]。
- PMIは自己分析には大変有用であった。PMIを見せ合うことでそれぞれの自分らしさについて互いにアドバイスをし合うことができ、可視化することで話し合いが有効になることは成果として十分にあったと思う [②]。
- 道徳科でも、“思考ツール”は個人の思考を「可視化」するのに有効であった。思考ツールが補助資料となり、ペアやグループでの話し合いに全員が参加することに役立った [②]。

[課題]

- 時間が十分ではなかったことから、今回はツールを用いた対話というよりも、ツールの見せ合いとなってしまったのが惜まれる [①]。
- PMIで分析したことをもとにして自分なりに端的に表現させ、それを交流し合うようにすべきであった [①]。
- Iを書きづらそうにしている子が多くいた。PやMと重なってもいいので、「自分の中ではせえないもの」や「大切にしたいこと」とすることで、“私自身の自分らしさ”を考えることができたのではないかと [②]。

導入

- アンケートをもとにしたアプローチ
- ファイルの活用
- 道徳における内容項目のつばわり
- 前時の記述内容を教師側から紹介しても良い

視点

- 想定させる工夫
- 解決意欲の高まり?

日常の課題から、内容項目に向かわせる工夫と

日常 ← ギャップ ↓ 意識 ↑ 気づき

展開 (前半)

- 一般論から「自分らしさ」を考えさせても良かった
- ワークシートの活用
- 吹き出しへの記入
- 教科: トマト 45-X 40-45- 立場に出たことで「ほやけてしまった...?」
- 詩の作者の思いと考えを捉え難しかったか?
- 資料と丁寧な読むことは大切
- ワークシートと資料に関する「め」のやり取り

生徒の言葉と大枠にしたがって展開

展開 (後半)

- PMI
- 良かった
- 自分、他者と様々な視点から考えさせても良い
- 長所? 短所の項目
- 書きやすかった
- 自分らしさの具体化が 必要 → 重要!
- ペアの様子
- 話し合いのアドバイスで記入できた
- 自分と誰かの対話での深さが見られた
- 話し合いやすいペア、グループ構成

見つけ直す

- 自分らしさへの深まりは得られたか?
- 自分らしさの定義づけはできたか?
- 自己と振り返る場を設定するに成功したか?
- PMIを書いた全てを自分から考えさせるに良かった

終了

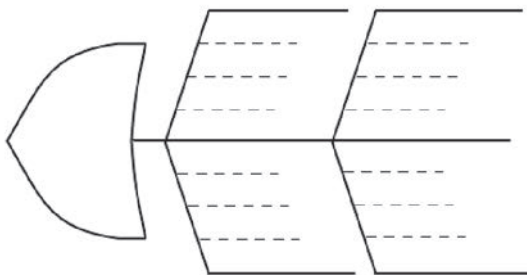
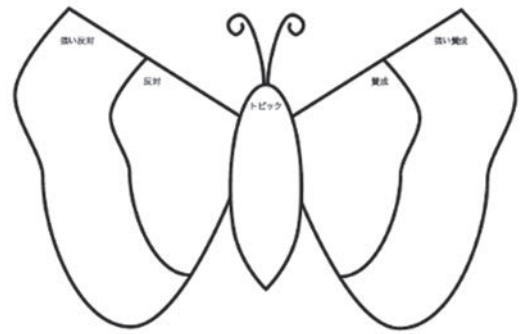
- 評価 「4.」が多い → 高評価している?
- 0振り返りの数値化 → 内容項目ごとの変化
- 詩 本時の関連も話せた → 気づきの深まり

改

- トマトを振り返り下げない
- 比較について考えさせたのは良かった
- 和歌の読みかたにも考えさせ
- PMIの時間を多くして、自分らしさを深く考えさせる
- ついでに比べてしつこくおこなう → PMI

思考ツールを用いた授業実践

思考ツール説明書



山場の場面の設定【構造化する】ピラミッドチャート

【校種・学年】 小学校第5学年

【教科・領域】 国語科

【実践の概要】

1 単元名 立場を変えて書きかえよう 『大造じいさんとがん』

2 単元の目標 自分が「山場」だと考えたところをもとに、大造じいさんの心情の変化を読み取り、大造じいさんの立場で「山場」の場面を書き換える。

3 本時の実際

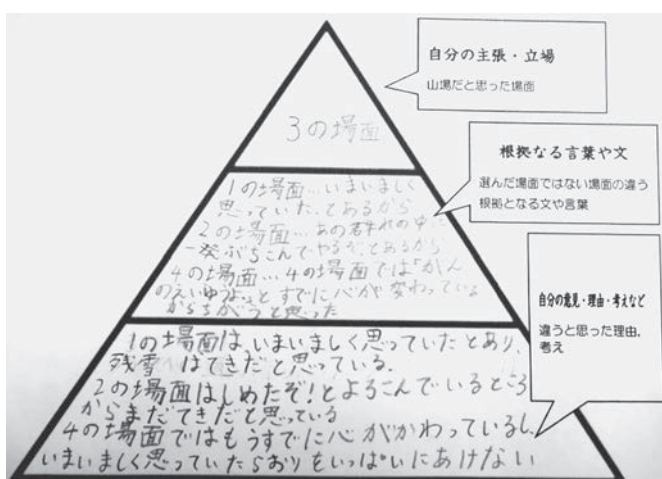
(1) 本時の目標

初めの場面と最後の場面を比べ、大造じいさんの心情の変化をとらえる。

(2) 本時の展開

時	主な学習活動	研究の視点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の復習 ○本時にすることの確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 大造じいさんの立場で書きかえるために、山場の場面を選ぼう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○全文音読する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○大造じいさんが一番変わった場面を1～4場面の中から決め、他の場面がなぜ違うのか考える。 ○「どの場面が山場か」「そう思った根拠となる叙述」「その叙述から考えたことや理由」をピラミッドチャートにまとめる。 (個人思考) 	視点2 (3) 「思考を表現に置き換える」
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で交流する。 ○他の教材の山場の場面を設定する。 	

4 ツールに見られた思考の姿



5 成果と課題

○ピラミッドチャートの上から下に考えていったことで、自分の主張や立場が明確になり、「どの文や言葉に着目し、そこからどんなことを考えたのか」という根拠や考えをもつことにつながった。

■思考ツールを使って考えを可視化することができたが、これを使っての交流が十分にできなかった。児童の考えに広がりや深まりをもたせられるような活用の仕方を模索していきたい。

比較しながらよりよいものを決定する【比較】エリアチャート

【校 種 ・ 学 年】 小学校第1学年

【教 科 ・ 領 域】 生活科

【実 践 の 概 要】

1 単 元 名 あきとともにだちになろう

2 単元の目標 自然物や身のまわりのものから、いろいろなものを作ったり遊んだりしながら、その楽しさを伝えあったり幼児と適切に関わったりできるようにする。

3 本時の実際

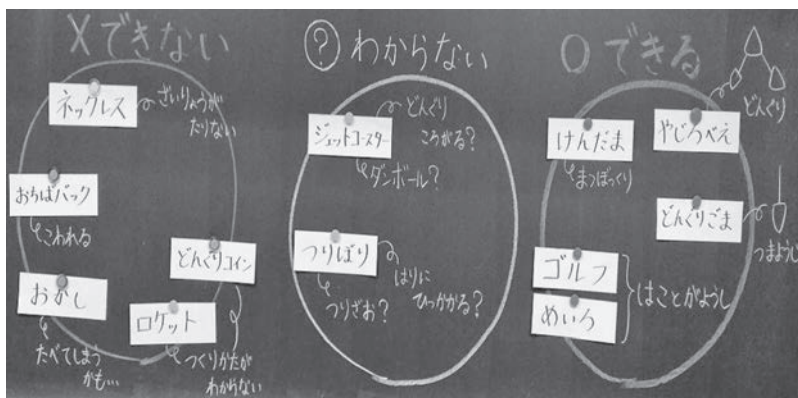
(1) 本時の目標

木の葉や木の実を利用し、身近なものを使って遊びや遊びに使うものを工夫して作り、そのおもしろさや自然の不思議さに気づき、みんなで楽しむことができるようにする。

(2) 本時の展開

時	主な学習活動	研究の視点
導 入	○集めてきたものの確認 ・どんぐり ・まつぼっくり ・くるみ ・木の葉 ・木の枝 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> みんながたのしめるおもちゃについてはなし あおう。 </div>	
展 開	○教科書で作れるものを確認する。 ○他に作れるもののアイデアを出し、 エリアチャートを使って話し合う。 ・できる(青) ・できない(赤) 「私は、○○はできないと思うので、赤にします。…だからです。」	視点2 (3) 「思考を表現に置き換える」
終 末	○できる(青)に入ったものを制作していくことを確認する。	

4 ツールに見られた思考の姿



5 成果と課題

○単純に多数決で決めるのではなく、理由を伝えながらできる・できないを話し合ったので、結果に納得している児童が多かった。

■できない理由は言えたが、できる理由を言うことが難しい。また、オリジナルのおもちゃはイメージしにくく、説明をするのに時間がかかった。

曲のイメージをつかむ【理由付ける】クラゲチャート

【校 種 ・ 学 年】 小学校第2学年

【教 科 ・ 領 域】 音楽科

【実 践 の 概 要】

1 単 元 名 <音のスケッチ> 「ウィーンの音楽時計」


2 単元の目標 音型の反復や重なりについて、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付く。

3 本時の実際

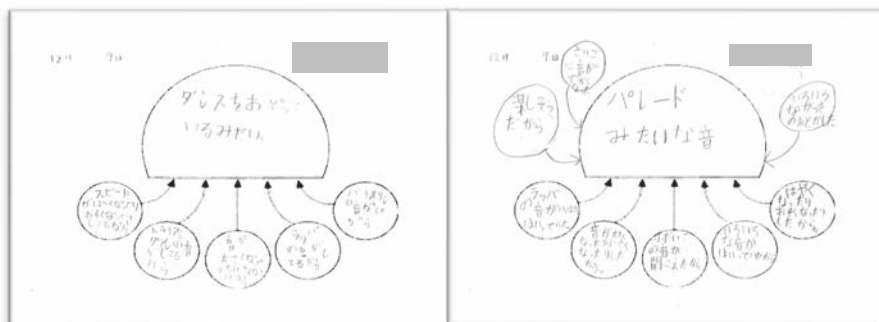
(1) 本時の目標

楽器の音色や音の重なり、テンポなどに着目し、それらが生み出す曲の印象について考える。

(2) 本時の展開

時	主な学習活動	研究の視点
導 入	○学習の見直しをもつ ・音楽を聞き、気付いたことをクラゲチャートに記入し、それをもとに曲のイメージを短い言葉でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">聞こえてきた音からどんな曲かそうぞうしよう。</div>	
展 開	○「 曲のテンポ 」「 使われている楽器 」「 音の大小 」「 明るい、暗い 」など、 感じたり聞こえてきたりしたことを足の部分にメモする。 (個人思考) ○ メモをもとに、曲のイメージを言葉で表す。	視点2 (2) 「多様な情報を収集する」 視点2 (3) 「思考を表現に置き換える」
終 末	○理由をいくつか挙げながら、曲のイメージを紹介し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">音の大きさやリズム、楽器などをじっくり聞いてみるとどんな曲かそうぞうしやすい。</div>	

4 ツールに見られた思考の姿



5 成果と課題

○テンポ、楽器、音の大小など、いくつか感じたことをもとに、曲のイメージを具体的な言葉にすることができていた。

■低学年ならば、足の部分に観点を入れるなどの工夫をしてもよかった。

考えの可視化【広げてみる】ウェビングマップ

【校種・学年】 小学校第4学年

【教科・領域】 道徳科

【実践の概要】

1 主 題 名 命の大切さ（教材名：命 ～精いっぱい生きよう～）
（内容項目：D 生命の尊さ）

2 本時の実際

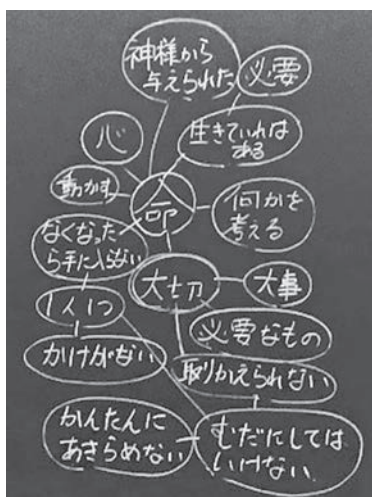
(1) 本時の目標

命はかけがえのない大切なものであることに気付き、自分の命を精一杯生きようとする心情を育む。

(2) 本時の展開

時	主な学習活動	研究の視点
導入	○命とは何かを考える。 ・命から連想することをウェビングマップに書き込む。 ・最初の思いをもつ。 命を大切にするととは？	視点2（3） 「思考を表現に置き換える」
展開	○資料の範読を聞く。 ○由貴奈さんの伝えたかったことを考える。 ○命について、多面的・多角的に考える。 ・「命」のウェビングマップに赤で付け足す。 ◎由貴奈さんの生き方について考える。 命を大切にするととは、限りある命を精いっぱい生きること。	視点2（2） 「多様な情報を収集する」 視点2（3） 「思考を表現に置き換える」
終末	○これまでの自分を振り返る。 ○自己の生き方についての考えを深める。 ○教師の説話を聞く。	

3 ツールに見られた思考の姿



4 成果と課題

- 色を変えて付け加えたことで、事前と事後の考えの違いを見取ることができた。
- 命の既存イメージに加えて、新たな視点からのイメージを加えて、考えを深めることができた。
- 終末でウェビングマップを生かして個人の振り返りを行うと、より有効に使うことができる。また、持ち寄って交流できるとよかった。
- 思い付いたことを素直につないでいけると考えが広がるが、どこつなぐかでつまづいてしまうと考えが広がらない様子が見られた。

根拠をもった交流へ【多面的に考える】バタフライチャート

【校種・学年】 小学校第6学年

【教科・領域】 道徳科

【実践の概要】

1 教材名 広い心をもって (教材名：ブランコ乗りとピエロ)
(内容項目：A 相互理解, 寛容)

2 本時の実際

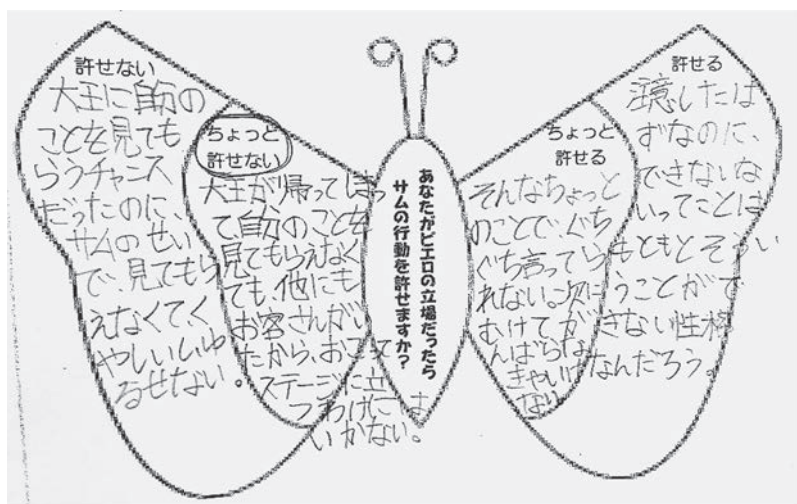
(1) 本時の目標

教材文を読み、自分と異なる意見や、行動の裏にある人の気持ちを考える大切さに気づき、よりよい人間関係を形成していこうとする態度を養う。

(2) 本時の展開

時	主な学習活動	研究の視点
導入	○「広い心」とはどのような心なのか話し合う <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">広い心ってなんだろう。</div>	
展開	○どんな話だったか。 ○どんな人が登場したか。 ○ピエロの立場になって考える。 ○ 自分がピエロの立場だったらサムの考えを許すことができるかバタフライチャートを用いて考え、交流する。 ◎ピエロの心からサムを憎む気持ちが消えてしまったのはどうしてでしょう。 ○サムと共演している時のピエロは、どんな気持ちだったでしょう。	視点1 (3) 「自分と結びつける」 視点2 (3) 「思考を表現に置き換える」
終末	○今日考えたことを今後、どんな場面で生かせそうですか。	

3 ツールに見られた思考の姿



4 成果と課題

- バタフライチャートを使うことで、自分の立場で考えるだけでなく、他者の立場で考えることができた。
- バタフライチャートを使って根拠をもった交流することができ、考えを深めることができた。
- 交流を板書でまとめる際にもバタフライチャートを用いたが、スケールチャート(p.43)を用いたほうが児童の立場を容易に視覚化することができたと考える。

昔と今を比較することによる読み深め【比較する】マトリックス

【校 種 ・ 学 年】 中学校第3学年

【教 科 ・ 領 域】 国語科

【実 践 の 概 要】

1 単 元 名 六 語りと向き合う『故郷』 魯迅

2 単元の目標 『故郷』の内容から、主人公とルントーの心情を読み取り、人間の生き方や社会のあり方を考える。

3 本時の実際

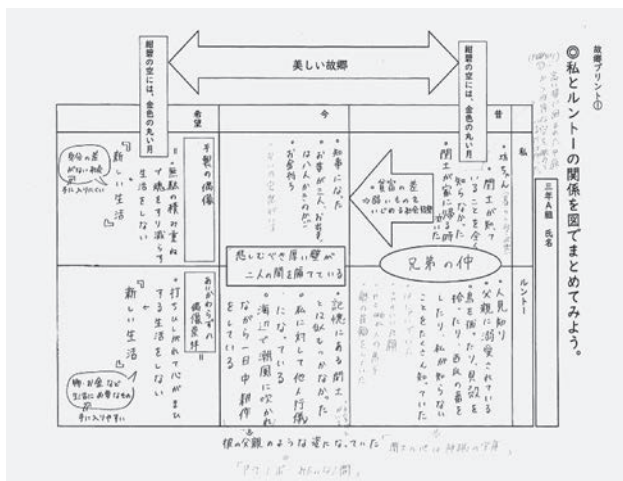
(1) 本時の目標

二人の幼い頃の関係と現在の関係や心情を読み取り、まとめることができる。

(2) 本時の展開

時	主な学習活動	研究の視点
導入	○前時の振り返り 私とルントーの心情を読み取ろう ・『故郷』の該当する大段落を読む。	
展開	○私とルントーの心情をマトリックスに書き出す。(個人思考) ○書き込んだマトリックスを使って、それぞれの読み取りや考えを交流する。(グループ交流)	視点2 (3) 「思考を表現に置き換える」
終末	○読み取りと交流を通して深まった考えを整理して、物語に込められた作者の思いを記述する。(個人) ○記述したものを発表する。 私とルントーの思いは○○である	

4 ツールに見られた思考の姿



5 成果と課題

- 身分の違いがもたらした境遇の違いやすれ違ってしまった心と希望を読み解いていく難しい教材だが、図にして書き込んでいくことで読み取りができた。時代を越えて変わらないものや時代の流れによって変わっていくものを考えることもでき、効果的だった。
- 立場は違っていても気持ちは昔と同じであることを、より一層理解するために、互いの立場を変えて気持ちを考えさせるとよかった。付箋に書き、交流すると効果があったと思う。

課題を可視化し、順序立てて思考する【順序立てる】ステップチャート

【校 種 ・ 学 年】 中学校第2学年

【教 科 ・ 領 域】 体育科

【実 践 の 概 要】

1 単 元 名 ソフトボール

2 単元の目標 運動の技術を身に付けるために、自己やチームの課題を見つけたり、課題に応じた練習方法やポイントを選んだりすることができるようにする。

3 本時の実際

(1) 本時の目標

自己の課題を解決するための方法について考え、課題解決のための練習を選択することができる。

(2) 本時の展開

時	主な学習活動	研究の視点
導 入	○準備体操をする。 ○前時の振り返り ・バッティングの課題と守備の課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">チームで課題解決に向けた練習方法を考えよう</div>	
展 開	○ チームごとに課題を解決するための練習メニューを、ステップチャートを活用して作成する。 ○チームごとに立てた練習を実践する。 ○簡単なゲームをする。	研究2 (3) 「思考を表現に置き換える」
終 末	○全員での課題を明確にする。 ○整列, 振り返り, 自己評価をして, 次回の授業内容を 確認する。	

4 ツールに見られた思考の姿

1. 課題：チームで基本的な技能の向上を図る練習をする。

時間	練習内容・練習方法
5分	守 キャッチボール … 投げる、捕るの基本を確認
10分	
15分	玉回し … ベースを使う感覚を確認
25分	ノック … 実際の打球を体験
30分	打 トス … 球をバットに当てる感覚を確認
40分	整 フリー … 実際の投球を自由に打つ

*バッティング(トス・バント・フリーなど)、守備(キャッチボール、ノック、玉回しなど)の練習を決める。練習内容でフィールドの使い方を相談する。

5 成果と課題

○ステップチャートは、順序立てて物事を考える際や計画を立てて見通しをもつときに、有効な思考ツールであることを確認できた。思考したことを記入することで、優先順位や物事の過程(全体の流れ)を認識することができる。

■選択肢を多く用意するなど、記入させる項目に幅をもたせることで、ステップチャートをより効果的に活用することができる。

残すための対策を考える【整理し、アイデアを出す】KPT

【校 種 ・ 学 年】 中学校第1学年
 【教 科 ・ 領 域】 道徳科
 【実 践 の 概 要】

1 主 題 名 郷土の伝統や文化を受け継ぐ（教材名：伝えたい味）
 （内容項目：C 郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度）

2 本時の実際

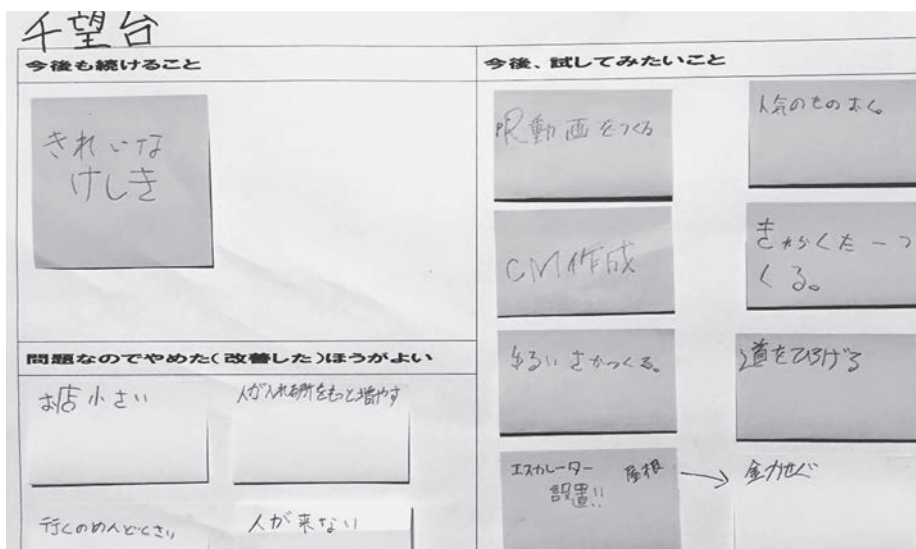
(1) 本時の目標

郷土のために自分ができることは何かを考え、郷土の発展のために自分が寄与しようとする態度を育てる。

(2) 本時の展開

時	主な学習活動	研究の視点
導 入	○留萌のよいところをあげ，わが子に残しておきたいものを考える。	視点1 (1) 「興味や関心を高める」 (切実感のある課題設定)
展 開	○教科書範読 ○どうして伝統の味を残したいのか，主人公の心情に迫る。 ○伝統や文化の役割について考える。(ペア) ・ 価値理解 ○留萌に残しておきたいものについて，保存のための対策を考える。 ・ 「今後も続けること」「問題なので改善したほうがいいこと」「今後試してみたいこと」を付箋に書き，KPTシートに貼っていく。(個人思考→グループ思考)	視点2 (3) 「思考を表現に置き換える」(思考ツールの活用)
終 末	○全体交流 ○振り返り	

3 ツールに見られた思考の姿



4 成果と課題

- 観点がはっきりしているので，思考の整理がしやすい。
- 問題点が明確となり，解決策が考えやすかった。
- 可視化した中でグループで協議することにより，思考の広がりが見られた。
- 実現可能かどうかまで，考えを深めるには至らなかった。

三角ロジック

論理的な思考力や表現力の育成に役立つ。

説得力のある議論をするための6つの基本要素【主張・事実・理由付け・裏付け・限定・反証】の論証モデルを単純化したもので、【根拠】客観的な事実・データ、【理由】事実・データに基づく推論・解釈、【主張】結論で構成される。

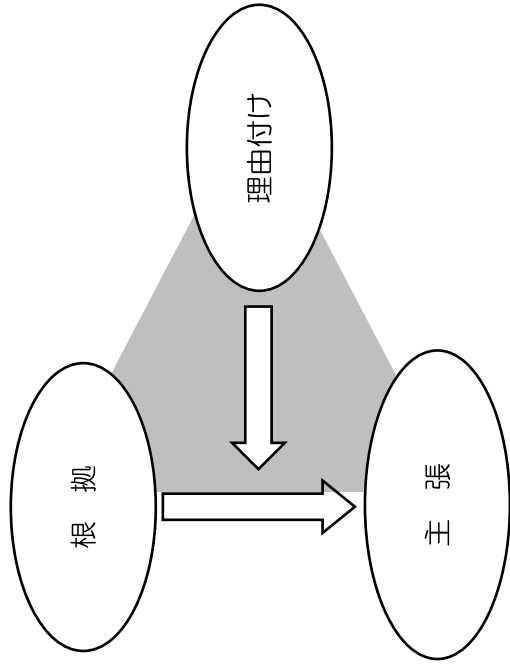
三角ロジックを通して、主張を支える 具体的事実の必要性や、その事実と主張をつなげるための適切な理由付けを理解することができる。

対話場面では、自分の意見を交流し、それぞれの「根拠」や「理由」を検討し合うことによって、自己の学びの自覚や、思考の広がりや深まりが期待できる。

【使い方】

- ① 学習課題に対する自分の「主張」と、それを支える「根拠」と「理由」を記入させる。「根拠」と「理由」をはっきりと区別させること
によって、主張が具体的に分かりやすくなり、説得力が高まる。
- ② 「理由」は、自分の既有知識や生活経験をもとに類推できることを記入させる。そうすることで、学習内容が自分自身にも関連することとして実感的に理解でき、学力差にとらわれない開かれた学びが期待できる。
- ③ 三角ロジックを用いて、互いの「根拠」や「理由」を検討させる。具
体性のないものに対しては、「どこから分かるのか」「なぜそう言える
のか」と問いかけ、思考を深めていくことで、理解につなげることが
できる。

三角ロジック



三角ロジック 例

【根拠】
最後が「けむり」の描写で終わっている。
本文からの読み取り

【理由付け】
けむりはすぐに消えるもの。
つまり、はかないもの。この物語
ではごんの命のはかなさを象徴
していると思うから。
学習者の知識や生活経験

【主張】
最後の一文はあった方がよい。

『ごんぎつね』 学習課題

最後の一文「青いけむりが、
まだ筒口から細く出ていまし
た」はあった方がよいか。

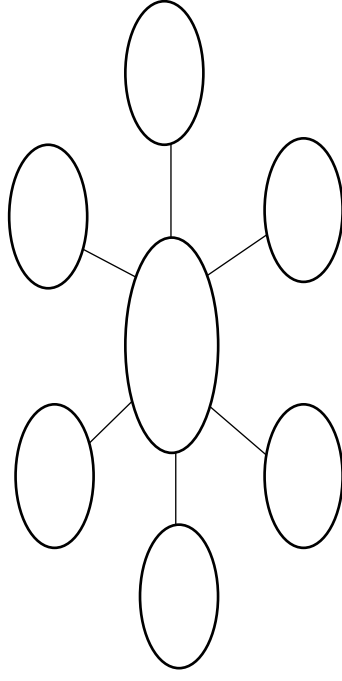
ウェビングマップ

ウェビングマップは、思い付いたアイデアを次々と記載していき、そのアイデアをつなげていく思考の整理に役立つ。また、そのアイデアが生まれた場面が可視化でき、その場面に戻って、また違うアイデアをつなげていくことができる。観察や実験などで収集した情報を再構成し、関係や傾向を見出すために、「分類する」「関連付ける」などの思考力の育成に有効な思考ツールの一つである。

ウェビングマップを使うときには、特に、「何を書くべきか」を気にしないのが重要である。むしろ、通常なら書かれるはずがないことが、ものの方を柔軟にしてくれる。

ウェビングマップは、別名「イメージマップ」とも言う。

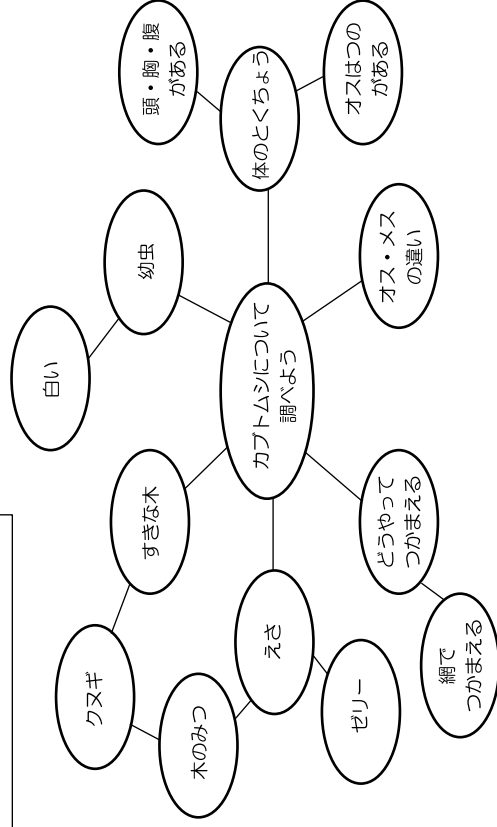
ウェビングマップ



【使い方】

- ①紙の中心にこれから考えを広げるトピックについて書き込ませる。1つの単語でも、「〇〇する方法」というような短い文でも構わない。
- ②そのトピックに関係あると思うこと、思い付いたことをまわりに書き、トピックとの間に線を書かせる。なるべくいろいろなることからアイデアを広げて、できるだけたくさん書かせるようにする。
- ③さらにそこから思い付くことを広げ、さらに外側に（2段階、3段階と）つないで書かせることもある。
- ④書き出したこと同士が関係が深いと思ったら、お互いを線で結ばせる。
- ⑤アイデアが出たら、似たもの同士を集めてまとまりを作ったり、階層化できるか検討させたりする。再度、ウェビングマップを書き直してもよいが、別の思考ツールにまとめてもよい。その上で、実際に調べることを絞り込んだり、感想文に書く事柄を選んだりさせる。

ウェビングマップ 例



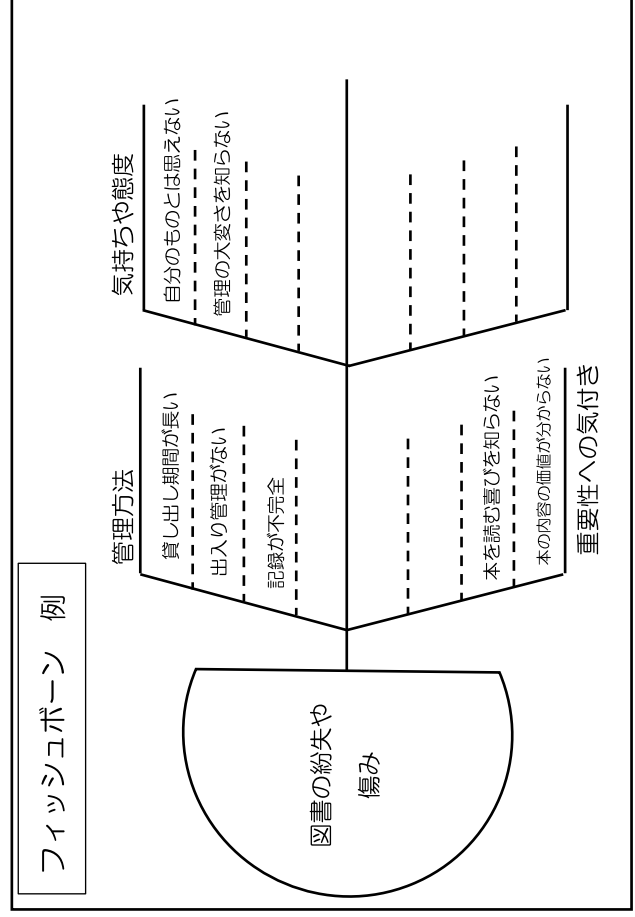
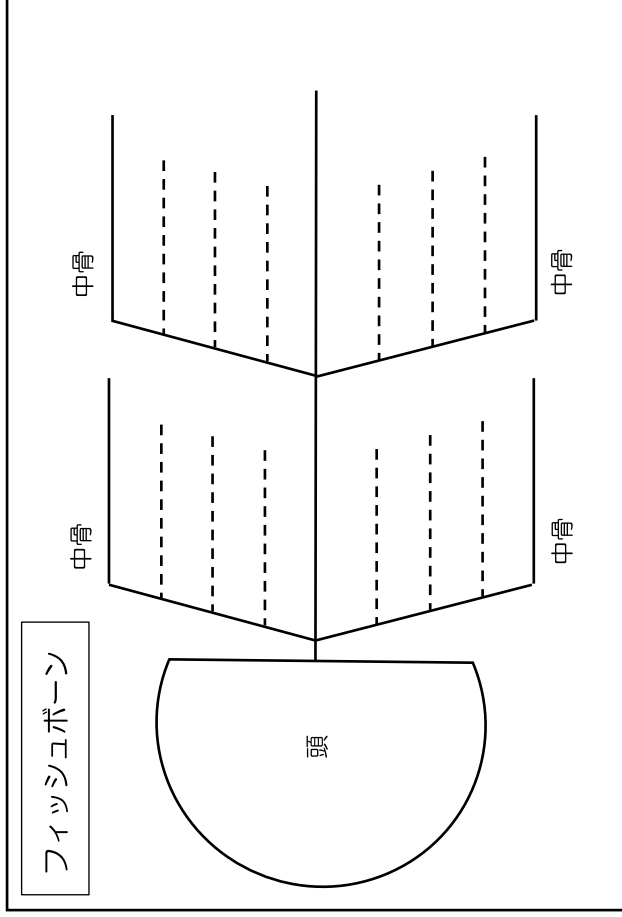
フィッシュボーン

魚の骨のような形をした「フィッシュボーン」は、問題となっていることの原因の解決策を考えたり、自分の考えについて理由や根拠を整理したりするのに役立つ。頭に「テーマ」、中骨に「視点」、内側の小骨に「具体例」を書いて使う。問題の原因を洗い出して解決策を考えたり、自分の考えについて、理由を洗い出して説明したりするのに便利である。

「理由付ける」「構造化する」「見通す」などとの関係が深い。

【使い方】

- ①問題とする事象や望ましい結果について、頭の部分に書き込ませる。
- ②その問題、結果の要因・原因と考えられるものについて、中骨のところに書き込ませる。あらかじめ中骨に書いて示しておいてもかまわない。
- ③それぞれの要因・原因について、それをさらに切り分けて、具体的にしたものの中骨のところに書き込ませる。
- ④それぞれが、変えられることなのか、変えられないのかを検討し、さらに変えられるとするならば、どのような対策が可能かを検討して解決策を提案したり、解決のための計画を立てたりさせる。
- ⑤可能な場合は実際にやらせてみると、その解決策が妥当だったかどうか分かる。

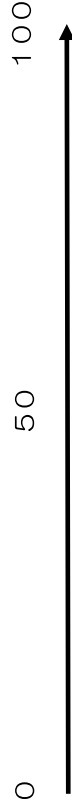


スケールチャート

このツールは、数直線上に示された0, 50, 100の指標をもとに自分のネームプレート置いて意思表示していくものである。容易であるとともに、自己の内面を数値で相対化することは、「なぜ、そう考えたのか」という自己への問い、他者への問いを引き出すことにつながる。

また、自分と他者との違いが視覚としてとらえられ、考えや思いの差異に着目しやすいよさがある。こうした活動では、他者の思いと比較して考えたり、共通部分を関連付けて考えたりするなどの思考力が発揮され、活発な話し合いが期待できる。

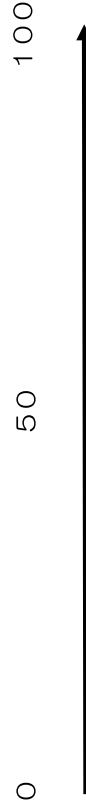
スケールチャート



【使い方】

- ①数直線を引かせる。左から、0, 50, 100など数値を付ける。中心を0として、左は-（マイナス）、右を+（プラス）としてもよい。
- ②考える内容を伝える。考える内容について、0（左側）がよくないイメージ、100（右側）がよくなるイメージであることを知らせる。
- ③意思表示を行う。数直線上に、ネームプレートやシール、付箋などを貼らせる。
- ④数直線上のネームプレートやシール、付箋などの散らばり具合から、全体の傾向をつかませる。
- ⑤なぜ、その位置にネームプレートなどを貼ったのか、理由などを交流させる。
- ⑥共通点や問題点などについて話し合いながら、考えをまとめさせる。

スケールチャート 例 係活動の振り返り



△△子
一生懸命取り組んでくれた人と、そうでない人がいた。

□□大
新聞を発行することができた。もう少し多く発行したかった。

○男
新しい取組を入れながら活動することができた。

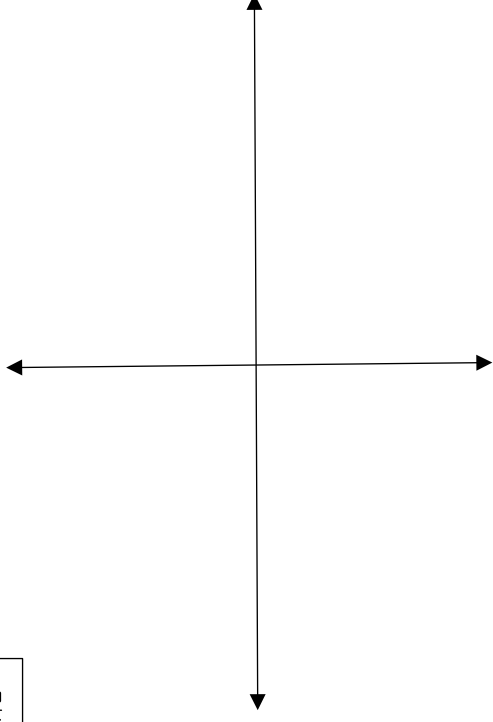
●美
計画通りに活動することができた。

座標軸

2つの軸を立てて対象を位置付けることによって、物事を整理するため
に使う。例えば「長所⇔短所」という軸を立てると、どれぐらい長所か(短
所か)という程度を考慮することになる。座標軸を数学的に理解させる必
要はなく、軸の端の方では何かの程度が大きくなり、反対方向ではそれが
小さくなるというようにイメージできるようにする。

具体的な事例を位置付けるとき「比較する」「分類する」「変化をとらえ
る」「評価する」などとかかわり、配置から全体の傾向を考えるとき「抽象
化する」と関係する。

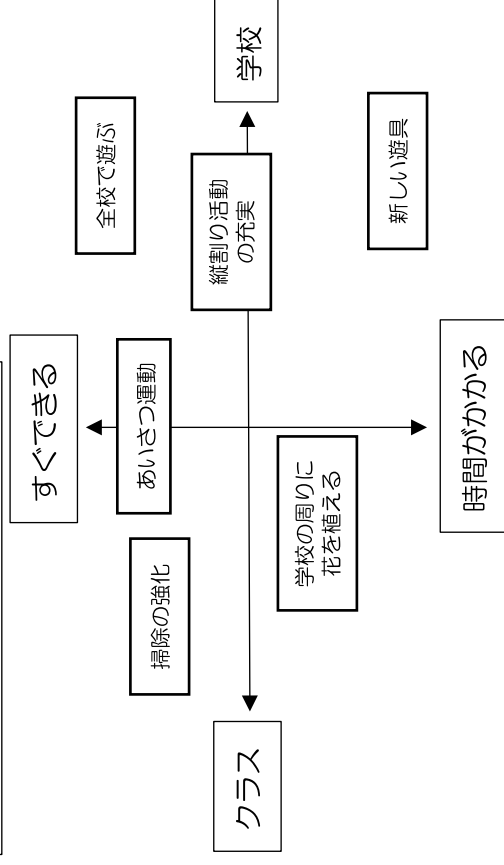
座標軸



【使い方】

- ①座標に何を設定するのかを決める。「時間」の場合は、いつからいつまで
かを明確にさせる。「自分たち⇔地域」「時間がかかる⇔すぐできること」
というように、レベルが連続的に変わらないようなものでも、頭の整理
に役立つのであればかまわない。
- ②学習内容に依じて、できごと、気付いたこと、感じたこと、わかったこ
となど、書くことを決めて座標に書き込ませる。グループでの活動の場
合は、一度付箋紙に書いてからみんなで貼り込んでいくようにさせる
と、同時かつ共同的に作業が進む。
- ③書き込みが終わったら、全体をながめて気付くことをまとめさせる。そ
のとき、各象限ごとに見ていくことで、特徴が分かりやすくなる。
- ④分かったことをもとにして、どのようにすればいいのかを考えたり話し
合ったりさせる。

座標軸 例 すてきな学校にしよう



ベン図

2つのものを「比較する」ときに使う。AとBを比較するとき、円の重なり部分に両者に共通する特徴、重なっていない部分にAだけ、あるいはBだけに見られる特徴を書く。

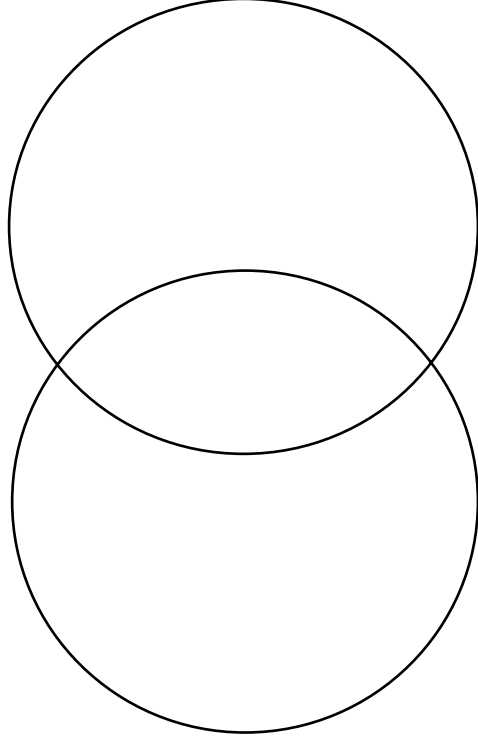
ものの特徴によって「分類する」ときにも利用できる。Aの特徴とBの特徴をもつかどうかを基準にする。重なり部分には両者の特徴をもつものを書き入れる。

円の数を増やせば、3つのものの比較に使える。2つにだけ共通するものを書き出すことは、表など他のツールでは表しにくい。

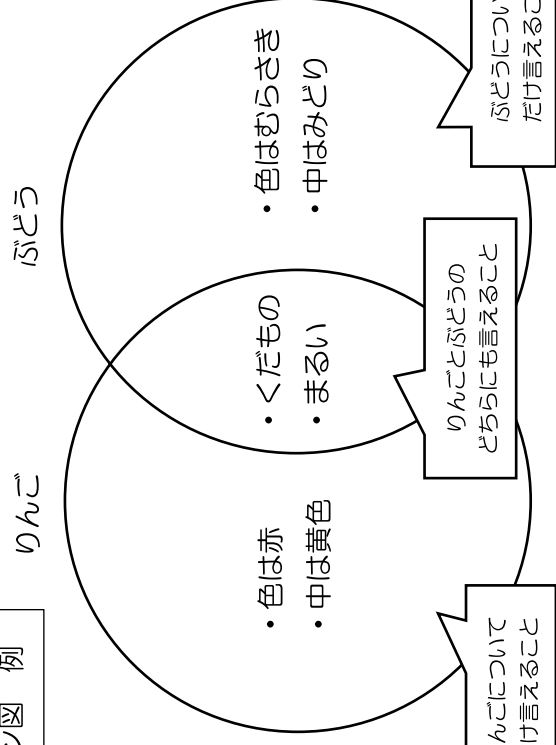
【使い方】

- ①比較する対象となる特徴や属性（今は、AとBとしておきます）を、それぞれの円の外に書き込ませる。
- ②円の重なる部分に、AとBの両方の特徴をもつものを、円の重なっていない部分にそれぞれ、Aの特徴だけをもつもの、Bの特徴だけをもつものを書き出させる。
- ③ベン図に書き出したことをもとに、新しい考えやまとまった考えにつなげさせる。

ベン図



ベン図 例



KPT

KPTとは、行ってきた活動を振り返る際に、「継続」「問題点」「挑戦」の3つの視点で整理するフレームワークのこと。話し合いの中で、ホワイトボードなどに「K: Keep=今後も続けること」「P: Problem=問題なので、やめること」「T: Try=今後、試してみたいこと」の項目を用意し、行ってきた活動報告の内容を「K」と「P」に振り分けていく。その後、「P」に対する解決策や新しいアイデアや企画を「T」欄に書いていく。行事や活動などの振り返りを行う場面に使うことができる。

【使い方】

- ①何の行事、活動について振り返るか考えさせる。
- ②ホワイトボードなどに、「K」「P」「T」の項目を用意する。
- ③行事、活動についての活動報告を付箋に記入する。行った活動1つについて、1枚の付箋に記入させる。
- ④付箋に記入したものを「K=今後も続けること」「P=問題なので、やめること」に振り分け、交流させる。
- ⑤「P=問題なので、やめること」に対する解決策や新しいアイデアや企画を「T=今後、試してみたいこと」の欄に記入させる。
- ⑥まとまったKPTの表を見て、今後どのようにしていけばよいのかを話し合わせる。

KPT

<p><u>Keep</u> 今後も続けること</p>	<p><u>Try</u> 今後、試してみたいこと</p>
<p><u>Problem</u> 問題なのでやめること</p>	

KPT 例 ○○小まつりの反省

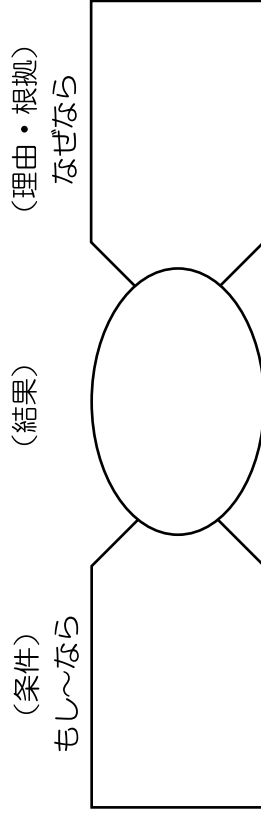
<p><u>Keep</u> (今後も続けること)</p>	<p><u>Try</u> (今後、試してみたいこと)</p>						
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="font-size: small;">だてわり班 ことにお店 を出す。</td> <td style="font-size: small;">保育園児や 幼稚園児を 招待する。</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">前年・後半で 仕事を分担 する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">高学年が低 学年の面倒 を見る。</td> <td></td> </tr> </table>	だてわり班 ことにお店 を出す。	保育園児や 幼稚園児を 招待する。	前年・後半で 仕事を分担 する。		高学年が低 学年の面倒 を見る。		<p>○来年も、だてわり班ごとにお店を出す。</p> <p>○前半・後半で仕事を分担し、高学年が低学年の面倒を見る。</p> <p>○外は使わないようにする。</p> <p>○できるだけたくさんのお店に行ってもらえるように、スタンプカードを作る。</p> <p>○景品作りは行わず、楽しんでもらえるお店を作る。</p>
だてわり班 ことにお店 を出す。	保育園児や 幼稚園児を 招待する。						
前年・後半で 仕事を分担 する。							
高学年が低 学年の面倒 を見る。							
<p><u>Problem</u> (問題なのでやめること)</p>							
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="font-size: small;">同じ店に行って いる人がいた。</td> <td style="font-size: small;">雨が降っていて 濡れている人が いた。</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">景品作りが 大変だった。</td> <td></td> </tr> </table>	同じ店に行って いる人がいた。	雨が降っていて 濡れている人が いた。	景品作りが 大変だった。				
同じ店に行って いる人がいた。	雨が降っていて 濡れている人が いた。						
景品作りが 大変だった。							

キャンディチャート

条件（もし～が～だったら）、結果（～になる）、理由（なぜなら～だからだ）という形で、仮定にもとづいて結果を「見通す」ことや「推論する」ことをうながす。結果はキャンディの本体部分に記入する。推論の方向性は、リボンがせまくなることで表している。

主人公の行為が違っていたらどうなるかなど、条件が変わったら、結果がどのようなのかを予想することは少なくない。その条件と結果を明示し、同時になぜそのような結果になるのかについて根拠を求めめる図式である。

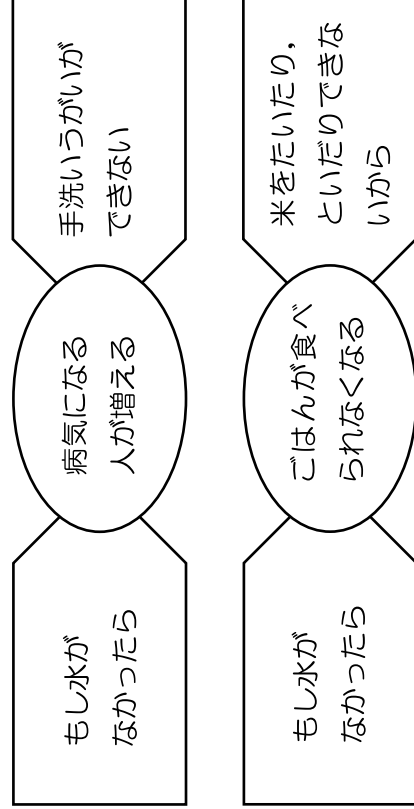
キャンディチャート



【使い方】

- ①条件や背景状況について、変えてみたい事柄を見つけてさせる。事象を成立させている条件が複数ある場合は、その条件を洗い出してから「何を変えるか」検討させると、変えてみたい事柄が見つかりやすい。
- ②「もしその事柄が～なら」という条件部分を左側のひねり部分に書き入れさせる。
- ③それぞれの予想の結果を○の中に書き入れさせる。
- ④そして、予想した理由や根拠を右側のひねり部分に書き入れさせる。
- ⑤各自の予想について発表し合い、その確からしさについて話し合わせる。

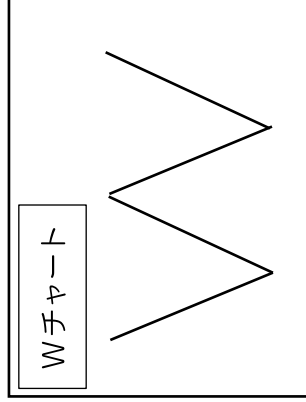
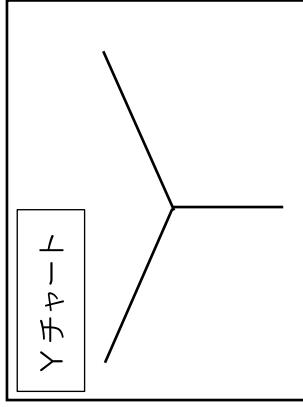
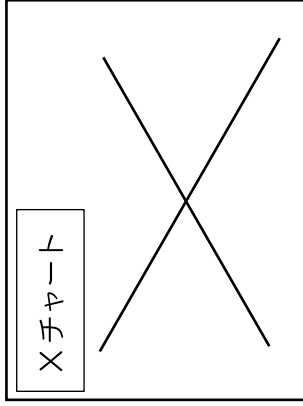
キャンディチャート 例 小学4年社会「水はどこから」



Xチャート・Yチャート・Wチャート

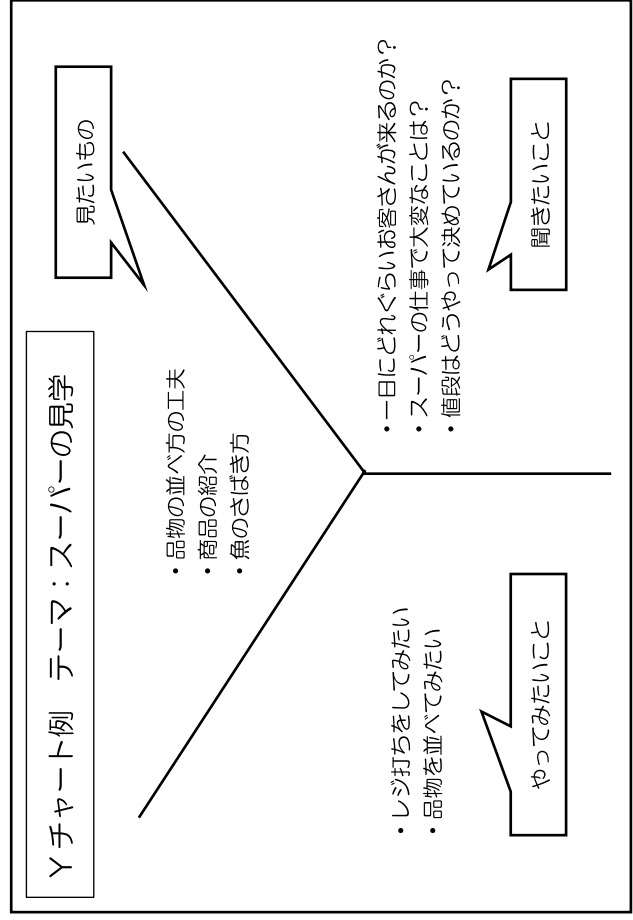
X, Y, Wの文字によって区切られた領域に、それぞれ「見た感じ」「聞いた感じ」「触った感じ」などの視点を割り当てて、対象を「多面的に見る」ときに使う。

どのような視点を設定するかは、授業の意図によって異なる。生活科などで体験を通じた気付きを書かせるのであれば、感覚でよいが、歴史を扱うときには異なる視点が必要となる。視点を自分で設定させたりグループで考えさせたりすることが望ましい場合もある。観察するときに、どのような視点が重要かに意識を向けることができる。



【使い方】

- ① 授業の目標に合わせて、対象に対して考えさせる視点を設定する。一般には教師が設定するが、子どもに任せられる場面もある。
- ② 自由に書き込みができるように十分な大きさの紙を用意して、視点の数に合ったチャートを描く。
- ③ それぞれの視点から対象を見て、思うこと、感じることを、考えること、あるいは集めた情報などを書き込ませる。
- ④ それぞれの視点に書き出されたことをもとに、感想文やレポート、発表原稿などを作成させる。



PMI

「いいところ (P)」「だめなところ (M)」「興味をもつこと・おもしろいところ (I)」の3つの視点から印象や意見を書き込み、対象を「多面的に見る」ときに使う。

「おもしろいところ」については、肯定、否定のどちらから分らない、どちらとも言えないけれどもおもしろいと思ったことについて書き込む。何が「いいところ」で何が「だめなところ」かについて、正解はないので感じたままに書くことが大切である。

物事の是非や善悪等を指摘し、自分の意見を述べるような活動の際に役立つ。

PMI

P (Plus) プラス いいところ	M (Minus) マイナス だめなところ	I (interesting) インタレスティング おもしろいところ
--------------------------	-----------------------------	--

【使い方】

- ①何について考えるかを、トピックやテーマ、めあてとしてはっきり示す。
- ②対象について「P」「M」「I」の3つの観点から、思ったことや感じたことを書けるだけ書き出させる。書く順番はどれからでもよい。
- ③「P」「M」を書くときには、どこがいいのか、だめなのかを具体的に書かせる。できそうなら、理由についても書かせる。
- ④対象「I」について書くときには、どのようなことを書くのかイメーヂをもたせてから書かせる。
- ⑤トピックについて、自分自身はどう思うのか、どう価値判断するか、どう意思決定するかなどをまとめさせる。

PMI 例 防災教育(避難所体験)

P (Plus) プラス いいところ ・避難所のつらさが分かった。 ・家族で防災について話し合ってみたい。 ・普段からの備えが必要であることが分かった。	M (Minus) マイナス 残念なところ ・お風呂に入れなくてつらい。 ・腰が痛くなった。 ・ご飯がおいしくなかった。 ・何日もなるとがまんできないと思う。	I (interesting) インタレスティング 疑問 関心事 ・どんな準備をしたらよいのだろう。 ・必要なものについてだれかに聞きたい。 ・この経験をだれかに伝えたい。
---	---	---

クラゲチャート

「理由付ける」スキルを可視化するための思考ツール。足の中には、頭の部分の根拠や理由を記入する。

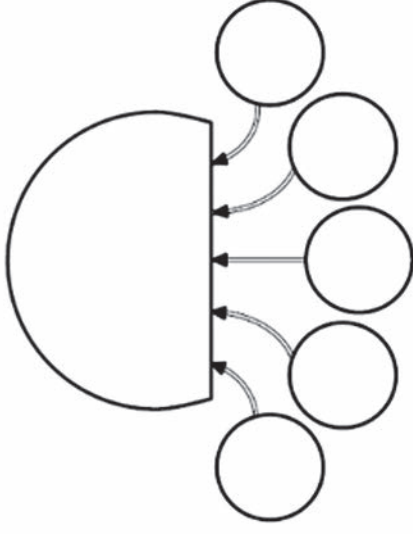
「なんとなくそう思う」ではなく、「根拠となる箇所」を指摘することが求められる場合に使用する。足は5本になっているが、すべて使う必要はない。また、足りなければ描き足して使ってもよい。

用途は「理由付ける」以外に「関係付ける」「要約する」に有効とされている。「主張の根拠や理由を探す場合」や「出来事や問題事象の原因や要因を探す場合」に扱える。

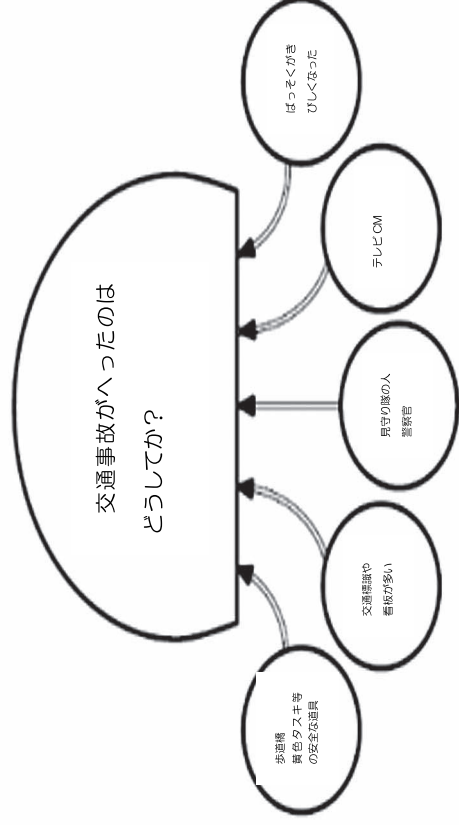
【使い方】

- ①クラゲの頭の部分に、主張や意見となる表現や記述、対象となる出来事や問題となる事象などについて書き込ませる。
- ②足の先にあるOの中に、根拠や理由、出来事や事象の原因や要因として考えられることについて書き出す。
- ③チャートが完成したら、1つ1つについて、グループや学級全体で確認して共有する。
- ④各自のチャートを見ながら、全体の要約を書かせたり、論理的に説明させたりしてもよい。

クラゲチャート



クラゲチャート 例 小学4年社会「自然災害にそなえるまちづくり」



マトリックス

マトリックスは、仕組みが単純であるため、汎用性の高い思考ツールであり、使い勝手が良い。

目的や用途によって、様々な場面で用いることができる。思考ツールとしてのマトリックスは、複雑な事象（資料）をマトリックスを使って分類して整理すること、整理されたセル同士の関係を見付け出してそれを表すために用いられる。マトリックスとは、簡単に言うと「行列」のことである。行という縦軸と列という横軸をもつ表のことを指す。

表に整理することで、共通点や相違点を明らかにし、次の活動について考えたり、新たな課題を見出したりすることができる。

【使い方】

- ① 「行見出し」に整理する観点（分類のカテゴリー）を書き入れる。
- ② 「列見出し」を作る場合は、整理する観点（カテゴリー）を書き入れる。
- ③ それぞれのセルに該当する事項（名前や名称等）を記入させる。
- ④ セルとセルを見比べて、書き込まれた事項の抜けや重なりなどに着目したり、数や種類について着目したりしながら、その理由やそれによる結果などについて意見をまとめる。

マトリックス

マトリックス 例 小学5年社会「これからの食料生産」

	農産物	海産物
青森県	りんご、さくらんぼ、ニンニク、長いも	毛ガニ、ホタテ、シジミ、マダラ
山口県	夏みかん	ふぐ、アンコウ、ワタリガニ、マグロ

ピラミッドチャート

下から上に使って、書くことを整理して主張を明確にすることができ
る。また、上から下に使って、主張を伝えるために書くことを焦点化す
ることができる。

【使い方】

〈下から上に考える場合〉

① 1 番下の階層に、集めた情報や思いつくアイデアをなるべくたくさ
ん書き入れさせる。文ではなく、短く情報やアイデアを象徴するよ
うに書かせる。

② 書き出したことを見ながら、焦点をあてることや主張の方向性を決め
させる。

③ 焦点化することと関係しそうな情報やアイデアを 2 番目の階層に
書かせる。

④ 2 番目の層に書いたことを確認しながら、それらが主張にうまく組み
込まれるような表現で、1 番上の層に主張を書き入れさせる。

〈上から下に考える場合〉

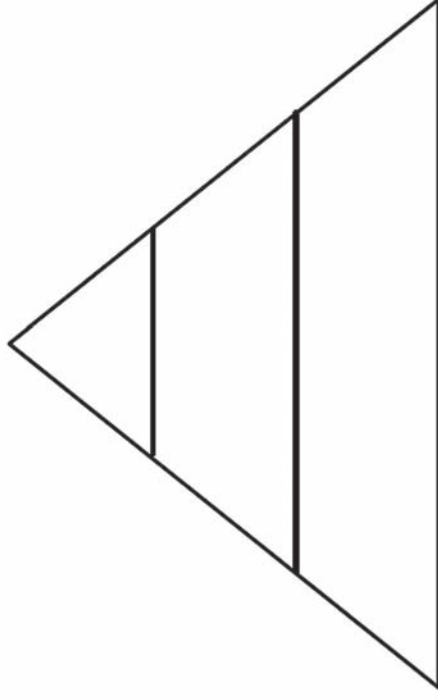
① 1 番上の階層に、主張したいことを書き入れさせる。

② 2 番目の階層に、その主張を支える意見などを書き込ませる。

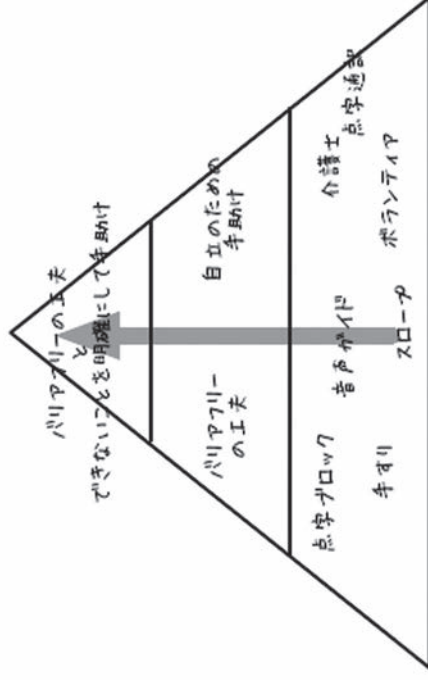
③ 3 番目の階層に、上の事実及び事実や意見を具体的に裏付ける事実や
データを書き入れさせる。

④ 「3 番目の階層に書かれた事実やデータを使いながら、2 番目の階層
の意見についてまとめる部分」「2 番目の階層の事実や意見を使って、

ピラミッドチャート



ピラミッドチャート 例 総合的な学習の時間 テーマ：福祉



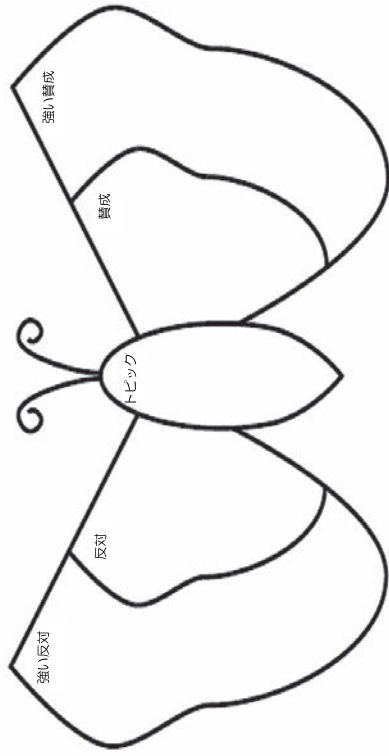
バタフライチャート

中央に書き入れたトピックについて、賛成、反対、強い賛成、強い反対の意見をもつ人の気持ちになって、その意見と理由を書き入れる。もごとの光の面・影の面の両面から物事を見ることを促す。賛成、反対ともに、より強い意見をもつ人も視野に入れることで、さらに深くトピックのもつ多義性・多面性に迫らせようとするものである。そして、賛否両方の立場に立った意見文や発表、学習のまとめをつくらせることができる。また、どのように強弱を判断したかも含めてアイデアをまとめることで、説得力のある意見を生むことが期待できる。

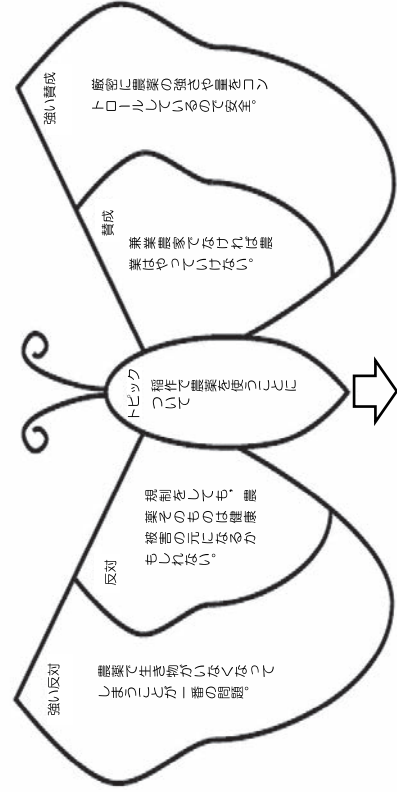
【使い方】

- ① 意思決定をすべきトピックを真ん中の胴体部分に書かせる。
- ② トピックについての情報を集める。その時、賛成、反対の両方の情報を意識して集めるようにさせる。
- ③ 集めた情報をもとに、賛成、反対の理由と、さらに強い賛成、強い反対の理由について整理させる。
- ④ 賛否の意見を押さえた上で、自分の意見を決めさせる。
- ⑤ 自分の意見について、賛否両方の意見を踏まえながら、意見文や発表原稿、学習のまとめなどをつくらせる。

バタフライチャート



バタフライチャート 例 小学5年社会「米作りのさかんな地域」



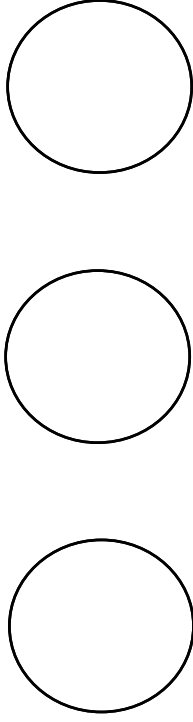
今の科挙では分からない意見があるかもしれないため、農業の利用には反対したい。しかし、農家の仕事や外国からの輸入米のことを考えると、そうも言えない。農業を盛らす、かつ輸入に頼むように仕組みが大事だと考える。

エリアチャート

エリアチャートは、3つのエリアを円で作り、各エリアにテーマを決めて、複数あるアイデアがどのエリアに入るのかを話し合いで決めていく。

例えば、子どもから出た様々なアイデアをカード化し、それぞれのエリアへ移動させていく。カードを移動させるときには、どうしてそのエリアになるのかを理由を発表するようにする。こうすることで、子どもの考える根拠を引き出すことができ、友達の意見と自分の意見を比べて考える思考活動が期待できる。

エリアチャート



【使い方】

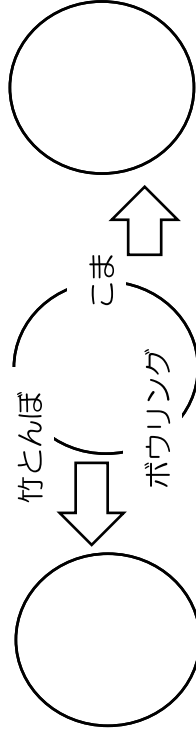
- ① 交流のテーマに基づいたアイデアを出させる。
- ② 話し合う目的を明確にし、意見として出されたアイデアを、設定したテーマのエリアに分けていく。
- ③ 分けていく際には、理由を付けて話し合わせながら行う。
- ④ 必要に応じて、子どもが発言した意見や考えは、エリアの周りに板書する。

エリアチャート 例 小学2年生生活「作って ためして」

赤円

黄円

青円



できない

わからない

できる



IV 成果と課題



1 自己の学習を見直し，振り返る主体的な学び

2 思考を広げ，確かな学びに向かう対話的な学び

研究の成果と課題について

留萌管内教育研究所では、第9次共同研究の研究課題を「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた実践的研究～思考ツールを活用した授業改善～」と設定し、研究を進め、検証授業を2本行った。

各視点の成果と課題について、以下のように明らかにすることができた。

視点1 自己の学習を見通し、振り返る主体的な学び

成果

- 単元の導入において問題との出会わせ方（資料、感想記述の活用等）を工夫することにより、問題を解きたい（考えたい）という切実感が生まれ、単元を通して主体的に学習に取り組む様子が見られた。
- 目標となるゴールを明確に設定したり、これまでの認識と現実のずれに気付かせたりすることで、児童生徒の学習意欲を高め、見通しをもって主体的に取り組む様子が見られた。
- 知識や技能の定着を振り返る取組や、自己の学びに対する変容を実感させる取組を行うことにより、主体的な学びにつながる様子を確認することができた。

課題

- 振り返りの場面では、自分が使用した思考ツールに立ち返り、考えが変容したり深まったりした理由を明らかにし、「自分がどのような学びをしていたか」「単元の中でどんな力が身に付いたのか」といった、学びを自覚できるような振り返りの場を意図的に設定していく必要がある。

視点2 思考を広げ、確かな学びに向かう対話的な学び

成果

- 授業者が対話のイメージを具体的にもって授業を行うことで、論点からずれることなく対話する様子が見られた。課題や対話の方向性を確認することで対話の質を高めることができた。
- 思考ツールが自分の考えの根拠として機能する様子が見られた。多様な考えを共有するなど、思考を可視化するよさを授業の中で確認することができた。

課題

- 学びの変容や深まりが自覚できるよう、対話中に考えたことや新たな気づきを思考ツールに加筆させるなどの手立てを講じる必要がある。
- 本時のねらいを達成させるために必要な思考スキルを明らかにし、それを活用・発揮できる思考ツールを選択することが大切である。

参考文献リスト

- 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編 文部科学省
- 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編 文部科学省
- 幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について 平成 28 年 12 月 21 日 中央教育審議会
- 平成 29 年度 小学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 平成 28 年度 小学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 資質・能力の育成を目指す主体的・対話的で深い学びのイメージ図
NITS 独立行政法人教職員支援機構
- 新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト
次世代型教育推進センター
- 研究紀要 第 21 号・第 22 号・第 23 号 平成 28～30 年 留萌管内教育研究所
- 研究紀要 No. 212 十勝教育研究所 平成 30 年 3 月
- 研究紀要 第 43 号 上川教育研修センター 平成 30 年 3 月
- 平成 28 年度 研究成果報告書 アクティブ・ラーニングによる授業の質的転換に関する調査研究 香川県教育センター 平成 29 年 2 月
- 岡山県総合教育センターだより 羅針盤 岡山県総合研究センター 平成 29 年
- シンキングツール～考えることを教えたい～
黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕 NPO 法人学習創造フォーラム 2012 年
- 「深い学び」で生かす思考ツール 田村学・黒上晴夫 小学館 2017 年
- 公立中学校版 深い学びを育てる思考ツールを活用した授業実践
田村学 小学館 2018 年
- 思考ツールを使う授業 関大初等部式思考力育成法〈教科活用編〉
関西大学初等部 さくら社 2014 年
- アクティブ・ラーニング対応 わかる！書ける！授業改善のための学習指導案
教育実習，研究授業に役立つ 藤村裕一 株式会社ジャムハウス 2015 年
- 平成 29 年度 学校教育の手引き 北海道教育庁学校教育局 平成 29 年 4 月
- 深い学び 田村学 東洋館出版社 2018 年



研究協力員

佐 治 麻里子 (苫前町立古丹別小学校)

五十嵐 文 人 (遠別町立遠別小学校)

渡 辺 大 (遠別町立遠別中学校)

鴻 上 優 美 (天塩町立天塩中学校)

留萌管内教育研究所

所 長 秋 葉 良 之 (留萌市立港北小学校)

主任研究員 佐 藤 隆 司 (留萌市立港南中学校)

研 究 員 山 際 信 博 (留萌市立留萌小学校)

寺 澤 寛 (留萌市立東光小学校)

四 宮 詠 子 (増毛町立増毛中学校)

渡 辺 心 (留萌市立緑丘小学校)

三 谷 玖 未 (留萌市立留萌中学校)

菊 池 真 登 (小平町立小平小学校)

中 村 泰 広 (留萌市立潮静小学校)

事 務 員 按 田 由 香



あ と が き



今年度は、新学習指導要領完全実施を見据え、「自己の学習を見通し、振り返る『主体的な学び』」、「思考を広げ、確かな学びに向かう『対話的な学び』」という視点を設け、理論研究および研究協力員による検証授業を行い、3か年継続研究の深化を図ってまいりました。

この度、本研究の成果と課題をまとめた研究紀要第25号を発刊いたします。作成にあたり、「留萌管内の先生方にとって役立つ研究」になるよう、思考ツールを用いた授業実践や実践で活用した思考ツールの具体について章立てて掲載しました。

本紀要について、学校における校内研究・研修はもとより個人研究や日常実践などに広く活用していただくとともに、多くの皆様のご批正、ご指導をいただけましたら幸いに存じます。

来年度は、2年次研究の成果と課題を踏まえた上で、3年次の研究に取り組み、多くの成果が得られるよう努力してまいります。今後も当研究所に対しまして、変わらぬご指導とご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

令和2年3月

研究紀要 第25号

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践的研究 ～思考ツールを活用した授業改善～

発行日 令和2年3月

発行所 留萌管内教育研究所

〒077-0033 留萌市見晴町2丁目27番地

Tel/Fax (0164) 42-2635 (直)

E-Mail ruken@educet.plala.or.jp

U R L <http://ruken.hs.plala.or.jp>

発行者 所長 秋葉 良之

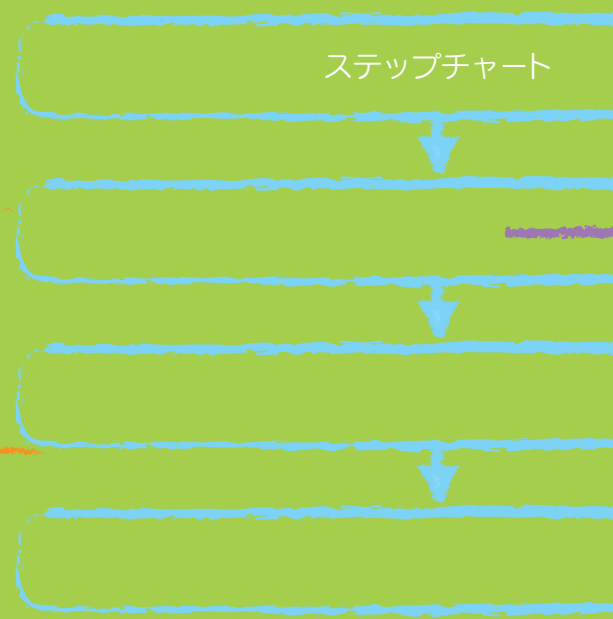
印刷所 白鷗印刷株式会社

〒077-0044 留萌市錦町2丁目3-20

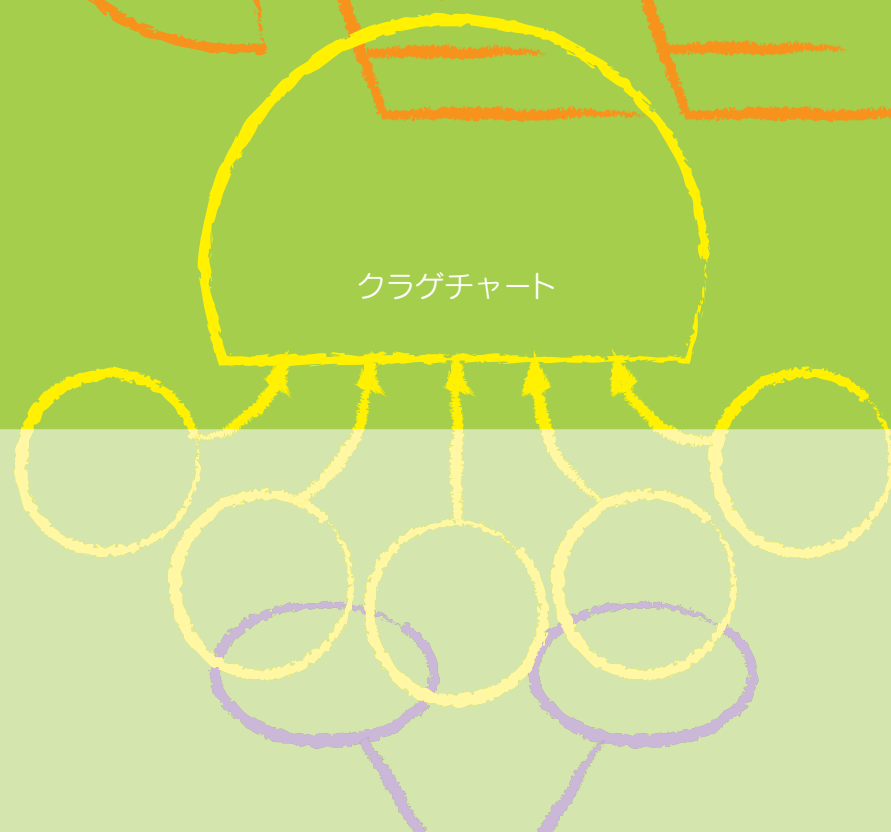
Tel (0164) 42-1111



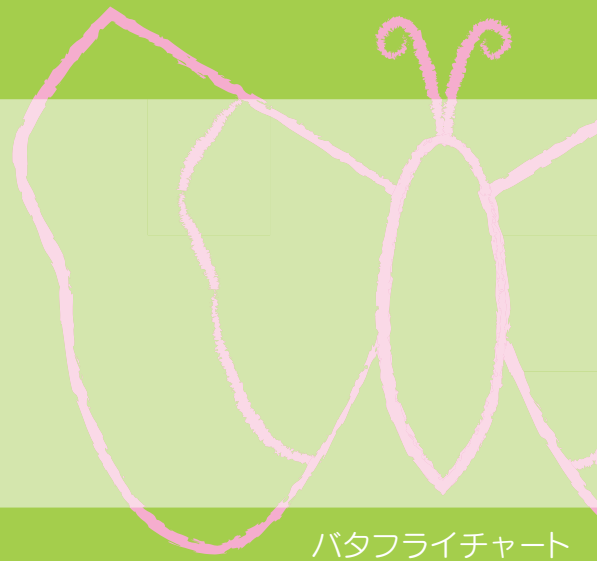
フィッシュボーン



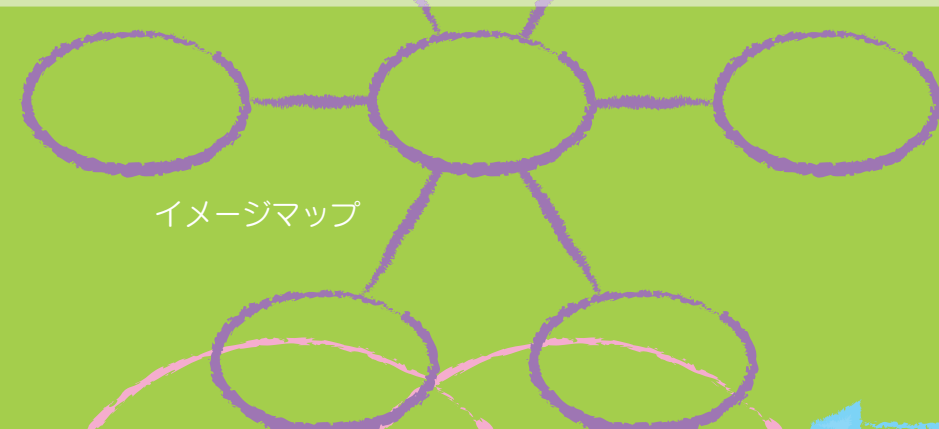
ステップチャート



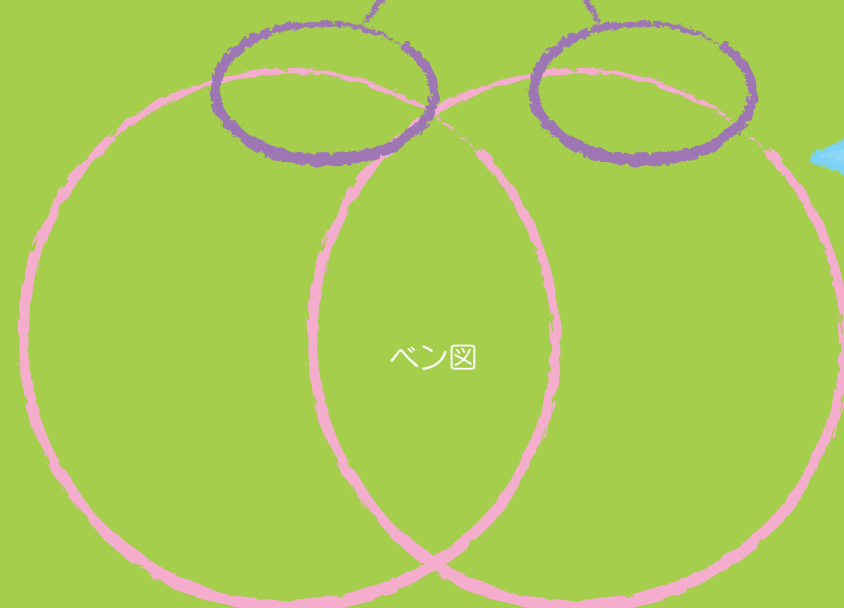
クラゲチャート



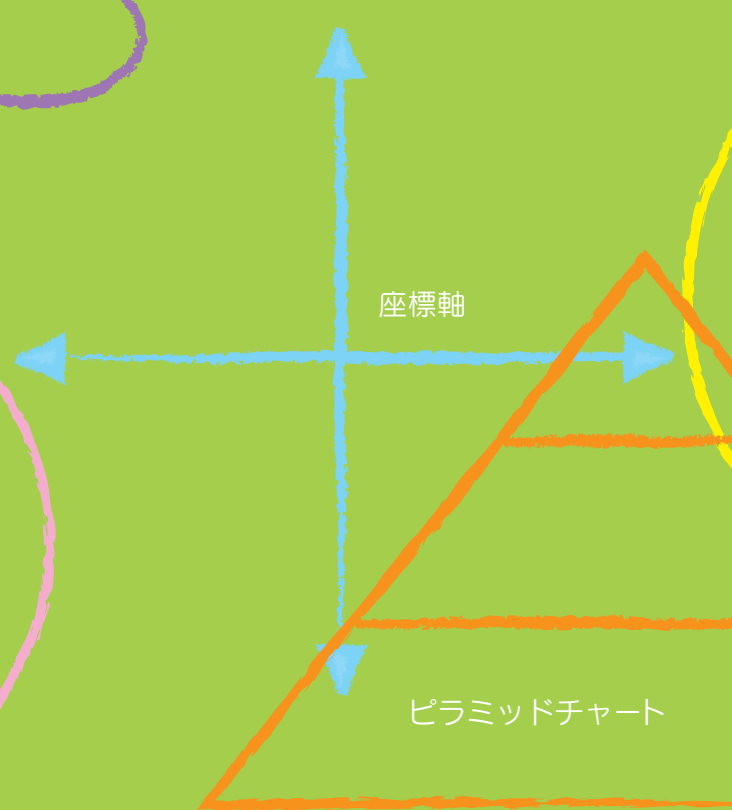
バタフライチャート



イメージマップ



ベン図



座標軸

ピラミッドチャート